

一九九

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

〔東久世書記官朗讀〕

去ル十日本院ニ於テ可決シタル政府提出藥品營業並藥品取扱規則中改正法律案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

同日政府ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

明治四十年法律第五十二號中改正法律案

明治四十二年法律第三十六號中改正法律案

同日群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 侯爵花山院 親家君 副委員長 千坂 高雅君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案可決報告書

群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案否決報告書

請願文書表第七回報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)

營業稅法中改正法律案

輕便鐵道法案

正三位勳二等男爵 前 島 密君

同日貴族院議員ノ辭職御允裁アラセラル

去ル十一日議員子爵曾我祐準君ヨリ四十名ノ贊成ヲ以テ貴族院伯子男爵議員選舉規則中投票ニ關スル規定改正建議案ヲ發議セリ

同日各特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

關稅定率法改正法律案特別委員會

委員長 侯爵黑田 長成君 副委員長 子爵曾我 祐準君

商法中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵川村 鐵太郎君 副委員長 馬屋原 二郎君

同日未成年者飲酒取締ニ關スル法律案特別委員長ヨリ否決報告書ヲ提出セリ

同日未成年者飲酒取締ニ關スル法律案特別委員長伯爵徳川達孝君外二名ヨリ委員會ノ報告ニ對スル少數者意見ヲ提出セリ

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

漁業法改正法律案

北海道土功組合法中改正法律案

那覇港修築工事ヲ沖繩縣ニ引繼ク事ニ關スル法律案

一昨十二日製鹽地整理ニ關スル法律案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 伯爵寺 島誠一郎君 副委員長 淺田 德則君

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

警部補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル法律案

銃砲火藥類取締法改正法律案

同日衆議院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

立木ノ先取特權ニ關スル法律案

質屋取締法中改正法律案

行政執行法中改正法律案

明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案

豫約出版法案

狩獵法中改正法律案

煙草專賣法中改正法律案

民事訴訟法中改正法律案

民事訴訟法施行條例中改正法律案

同日衆議院ヨリ政府提出家畜市場法案ハ本院ノ議決ニ同意シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キ、議事日程ニ移リマス、

議事日程第一、男爵伊達宗敦君、櫻木嘉右衛門君請暇ノ件、伊達男爵ハ病氣ニ付キ十日間、櫻木君ハ病氣ニ付キ八日間ノ請暇デゴザイマス、何レモ許可イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約

ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)審査期限ヲ定ムルノ件

〔左ノ送付文ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

(追第二號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十日

衆議院議長 長谷場純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

○子爵曾我祐準君 此議事日程第二ノ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件追第二號ノ審査期限ハ來ル二十日マデト定メタウゴザイマス、ドウカ皆サンノ御賛成ヲ願ヒマス

○子爵提功長君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 曾我子爵ノ審査期限ヲ來ル二十日マデト致スコトハ諸君ニ於テ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第三、明治四十年法律第五十二號中改正法律案、政府提出、第一讀會、第四、明治四十二年法律第三十六號中改正法律案、政府提出、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

明治四十年法律第五十二號中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治四十三年三月十日

内閣總理大臣侯爵桂 太郎

外務大臣伯爵小村 壽太郎

內務大臣法學博士伯爵平田 東助

司法大臣士男爵子爵岡部 長職

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

明治四十年法律第五十二號中改正法律案

明治四十年法律第五十二號中「統監府法務院又ハ理事廳ト關東都督府法院

トノ間」ヲ「統監府裁判所及關東都督府法院、關東都督府民政署長又ハ民政支署長相互ノ間」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年法律第三十六號中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治四十三年三月十日

内閣總理大臣侯爵桂 太郎

外務大臣伯爵小村 壽太郎

內務大臣法學博士伯爵平田 東助

司法大臣士男爵子爵岡部 長職

明治四十二年法律第三十六號中改正法律案

明治四十二年法律第三十六號中左ノ通改正ス

第一條中「臺灣及韓國」ヲ「臺灣、韓國又ハ關東州」ニ、「統監府法務院及理事廳」ヲ「統監府裁判所又ハ關東都督府法院、關東都督府民政署長若ハ民政支署長」ニ改ム

第二條中「又ハ理事廳理事官」ヲ「統監府地方裁判所若ハ統監府區裁判所ノ

檢察又ハ關東都督府地方法院檢察官若ハ關東都督府民政署、民政支署所屬

官吏ニシテ檢察ノ職務ヲ行フ者」ニ、「統監府法務院及理事廳」ヲ「統監府裁

判所又ハ關東都督府法院、關東都督府民政署長若ハ民政支署長」ニ改ム

第三條 裁判所、臺灣總督府法院、統監府裁判所又ハ關東都督府法院、關

東都督府民政署長若ハ民政支署長ノ言渡シタル刑ニシテ刑名同シキモノ

ハ其ノ執行ニ關シテハ同一ノ刑ト看做シ韓國法規ノ流刑又ハ禁獄ハ禁錮

ト看做ス

第四條中「韓國」ヲ「韓國又ハ關東州」ニ、「統監府法務院及理事廳」ヲ「統監府

裁判所」ニ、「臺灣」ヲ「臺灣又ハ關東州」ニ於テ、關東都督府法院、關東都督府

民政署長又ハ民政支署長ノ言渡シタル判決ヲ臺灣又ハ韓國」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員安廣伴一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(安廣伴一郎君) 此明治四十年法律第五十二號中改正法律案ハ共助ニ關スルモノゴザリマシテ、四十二年法律第三十六號ノ方ハ判決執行ニ關シマシタル法律案デゴザイマスガ、今回日韓協約ノ結果、統監府裁判所ヲ設置イタシマシタニ付キマシテハ、是マデ法務院、ソレカラ理事廳トゴザリマスノヲバ統監府裁判所ト變ヘマスノデゴザイマス、其他二三ノ修正ヲ致シマシタノデゴザリマス、御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程、第三、第四、兩案共ニ同一委員ニ付託イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第五、營業稅法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

營業稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十日

衆議院議長 長谷場 純 孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔小字ハ衆議院ノ修正ハ同削除ノ符號〕

營業稅法中左ノ通改正ス

第一條中「一船渠業」「一土木請負業」ヲ削リ「一勞力請負業」ヲ「一請負業」ニ、「一公ナル周旋業」ヲ「一周旋業」ニ、「一代辨業」ヲ「代理業」ニ、「一仲買業」ヲ「一間屋業」ニ改メ「印刷業」ノ次ニ「出版業」ヲ、「一間屋業」ノ次ニ「信託業」ヲ加フ

第三條中「資本金額」ヲ「運轉資本金額」ニ改ム

第四條中「器物、器械」ヲ「物品」ニ、「染物、洗濯」ヲ「染物」ニ改ム

第七條中「印刷業」ノ下ニ「出版業」ヲ加ヘ「土木請負業、勞力請負業」ヲ

「請負業」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

出版業ニシテ新聞紙法ニ依ルモノニハ營業稅ヲ課セス

第十條ノ二 營業稅ヲ課スヘキ周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業ハ一箇年報償金額百圓以上ノ者トス

第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額	甲種 米、麥、石油、肥 卸賣ハ萬分ノ十二 料、砂糖、鹽 小賣ハ萬分ノ二十五 乙種 羽二重、生絲、 卸賣ハ萬分ノ十二 綿絲、白綿布、 小賣ハ萬分ノ三十五 綿花、紙 卸賣ハ萬分ノ四十五 丙種 前二種ニ屬セサル物品 小賣ハ萬分ノ四十五
	建物賃貸價格	從業者 千分ノ七十
	資本金額	從業者 千分ノ五十
銀行業	建物賃貸價格	從業者 千分ノ七十
	資本金額	從業者 千分ノ五十
金錢貸付業	運轉資本金額	從業者 千分ノ六半
	建物賃貸價格	從業者 千分ノ七十

寫眞業	印刷業 出版業	請負業	鐵道業	倉庫業	運送業、河業、船業、繁場、陸揚、物場、業、貨、業	製造業 印刷業 寫眞業
資本金額 建物賃賃價格 從業者	資本金額 建物賃賃價格 從業者 從業者ノ内職工勞役者	請負金額 從業者	收入金額 從業者	資本金額 建物賃賃價格 從業者	資本金額 從業者	資本金額 建物賃賃價格 從業者 從業者ノ内職工勞役者
千分ノ四 千分ノ七十五 一人毎ニ金二圓	千分ノ五半 千分ノ五十五 一人毎ニ金二圓 一人毎ニ金五十錢	千分ノ五 一人毎ニ金二圓	千分ノ二十五 一人毎ニ金二圓	千分ノ二五 千分ノ四十五 千分ノ七十五 一人毎ニ金二圓	千分ノ六 一人毎ニ金二圓	千分ノ五三七 千分ノ九十五 一人毎ニ金二圓 一人毎ニ金五十錢

信問仲 託屋立 業業業	代理旋 業業業	旅人宿 業業業	席貨 理店業業
報價金額 建物賃賃價格 從業者	報價金額 從業者	建物賃賃價格 從業者	建物賃賃價格 從業者
千分ノ三十七半 千分ノ七十 一人毎ニ金二圓	千分ノ三十五 一人毎ニ金二圓	千分ノ九十五 一人毎ニ金二圓五十錢	千分ノ百四十五 一人毎ニ金二圓五十錢

營業者ヲ除クノ外從業者中十五歲未滿ノ者ニ付テハ前項稅率ノ二分ノ一トス

第十五條中「土木請負業、勞力請負業」ヲ「請負業」ニ、「公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業」ヲ「周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業」ニ改ム

第十八條 建物賃賃價格ハ貸主カ公課、修繕費、保險料其ノ他土地又ハ建物ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ店舗其ノ他營業用ノ土地建物ヲ賃賃スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ヲ謂フ但シ同一區域内ニ在ル住居用其ノ他ノ土地建物ニシテ間接ニ營業ニ使用スルモノハ營業用トシテ計算ス

第十九條中但書ヲ削ル

第二十一條中「船渠業、」ヲ削リ「印刷業、」ノ下ニ「出版業、」ヲ加フ

第二十八條ノ二中「各稅務監督局」ヲ「各稅務署」ニ、「商業會議所代表者及」ヲ「五名乃至七名トシ」ニ改メ「審査委員ノ定數及」ヲ削ル

附則

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別稅法中營業稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 營業稅法中改正案ハ政府ノ前キニ提出イタシマシタ諸稅法整理案ノ一デアリマスケレドモ、施行期ヲ四十四年カラニシテアリマス爲ニ、四十三年度ノ豫算ニハ關係ガアリマセナカッタ故ニ、今日マデ別ニシテ衆議院デハ審査セラレタ案デアリマスルガ、大分此案ハ衆議院ノ修正ガアリマスル故ニ一ト通り原案ノ趣意、竝ニ修正ノアリマスル所ニ付イテ、申上ゲテ置キタイト思ヒマスノデアリマス、御承知ノ如ク營業稅ヲ取リマス今日ノ仕組ハ、課稅ノ標準ヲ幾通りモ設ケマシテ……其幾通りモ課稅ノアル標準カラ段々先ヅ金額ヲ合計シタモノヲ以テ營業稅ノ高トシテ、之ニ據ッテ稅ノ脱漏ニナラナイヤウナコトヲ期シマスル次第デアリマス、併ナガラ其標準ノ中ニハ、自ラ重モニナリマスモノト、又從ト申上ゲマスカ、副ト申上ゲヤウカ、兎ニ角重モナルモノヲ補充スルヤウナ意味ヲ有ッテ居ル課稅ノ標準トニタ通りアルノデ、例ヘテ申上ゲマス、物品販賣業ナラバ先ヅ販賣高ト云フモノガ重モナル標準デアッテ、建物賃賃價格、或ハ從業者ト云フモノハ、之ヲ補充スル標準ニナッテ居リマス、製造業其他ニシテモ、資本金ガ重モナモノデ、建物賃賃價格、或ハ從業者ト云フモノハ、補充ノ標準ト申上ゲテモ宜シイノデゴザイマス、ソレ故ニ若シ營業稅ヲ増ス必要ガアリマスルナラバ、第一ニ此重モナル標準ノ額ヲ上ゲテ、サウシテ補充タルモノ、方ハ幾ラカ割合ヲ少ナクシテ上ゲルト云フコトガ、丁度、稅ヲ課シマスル上ニ權衡ヲ取ッテ行キマス上カラ申上ゲマス至當デアアルノデアリマスガ、此非常特別稅ヲ課シマスルトキハ戰事ノ際デアリマスルモノデアリマシタカラ、成ルベク簡便ノ方法デ増徴スル方ガ宜カラウト云フノデ、十五割ヲ増加スルト云フト、ドノ標準モ皆此増額ガ一倍半ヲ上ゲラレルコトニナッテ居ルノデアリマス、随ッテ割合ニ小營業者ノ負擔ガ重イヤウナ結果ヲ生ジマス、唯今ノ所デハ幾分力負擔ノ衡平ヲ缺イテ居ルヤウナ感ジガアリマスノデアリマス、ソレ故ニ政府ノ方デハ之ヲ直シマスノニハ、此重モナル課稅標準ノ方ハ現行ヨリモ其儘……現行其儘デ置キマスカ、或ハ下ゲルニシテモ幾ラ少シク之ヲ低減シ、若クハ場合ニ依ッテハ幾分力之上ゲルト云フヤウニシテ、サウシテ其副タル課稅ノ標準ヲ餘計ニ減ジテ權衡ヲ探ッテ行ク方ガ宜カラウト云フノ

デ、其一點ガ政府ノ改正ノ原案ニナッテ居ルノデアリマス、尙又物品販賣業……即チ營業稅ヲ納メマスル者ノ中ノ一番多數デアリマスル物品販賣業タルモノハ、業體ガ幾ラモアリマスケレドモ、今日デハ課稅標準ガ一樣デアアルノデアリマス、即チ賣上金高、賃賃價格、從業者デアリマス、之ニ向ッテ一定ノ割合デハイカナイ營業者ニ對シテモ此課稅ヲシテ居リマスガ、元來資本ノ回轉數ノ多イモノト資本ノ回轉數ノ少ナイモノトデハ、同ジ賣上高デモ其利益ガ大變ニ違フノデアリマス、米鹽ノ如キ、其他日常必要ノ品物ヲ販賣シマスルモノハ、資本ノ回轉數ガ頻繁デアリマス故ニ、一定ノ賣上高デアッテモ、利益ガ割合ニ少ナイ、之ニ反シテ贅澤品ノ販賣ノ如キモノニナリマス、資本ノ回轉ハ少ナイケレドモ、其代リ一定ノ賣上金ニ對シテ、利益ノ割合ハ割合ニ多イモノデアリマスガ、今日デハ其利益ノ如何ニ拘ラズ、同ジ標準デ課稅ヲスルコトニナッテ居ルノハ、是亦負擔ノ上ニ不權衡ヲ生ズル一ツニナリマスノデ、政府ノ原案ハ此二ツノモノニ於テ適當ニ稅率ヲ按排シテ、全ク此納稅者ノ負擔ノ均一ヲ圖ラウト云フノデアッタノデアリマス、併ナガラ唯今申上ゲル如ク、或ルモノハ増シ、或ルモノハ減ジテ、負擔ノ均衡ヲ圖ラウト云フノデアリマスカラ、政府ノ原案ニ依リマスルト云フト、小營業者ハ概シテ皆稅ガ減ズルノデ、大營業者ト雖モ減ズルモノガアリマスガ、中ニハ幾分力増スモノモアル、政府案デ見マスレバ悉ク減ジテバカリハ居リマセヌ、減ズルモノモアレバ、又増スモノモアル、而シテ此結局シタ所ノ合計約百五十萬圓ノ減額ヲ生ズル案デアリマシタ、之ニ對シテ衆議院デ修正ヲ加ヘラレマシタ所ノ稅率ハ、政府ノ原案ニ對シテ殆ド皆修正ヲ加ヘテアリマス、例ヘバ宿屋、或ハ料理業者ニ對シテハ、從業者ノ稅率ヲ減ジテアルノデアリマス、ソレカラ私ガ前ニ申上ゲマシタ主タル標準ト云フモノニ付イテハ、政府案デ減ジテアルモノモアリ、据置キノモノモアリ、或ハ幾分力上ゲテアルモノモアリマスガ、衆議院ニ於テハ之ヲ据置キ、又ハ總テ減ズルト云フ方ノ修正ニナッテ居リマスノデアリマス、例ヘバ賃賃價格ニ對スル稅率ハ政府案デハ餘ホド減ジテアリマス、倉庫業ヲ除クノ外餘ホド減ジテアリマス、倉庫業ニ對シテハ、政府案デハ賃賃價格ヲ以テ重モナル標準ト見テアリマスノデ、之ヲ上ゲタノデアリマスガ、其外ハ政府ノ原案デハ餘ホド減ジテアリマスガ、衆議院ハ之ヲ減ズルコト、政府ノ原案ニ對シテ餘ホド少ナクシタノデアリマス、ソレカラ衆議院ノ修正ニ依ルト、ドノ標準ニ對スル稅率モ上ゲタモノハ

ナイノデアリマスカラ、納税者ニ取リマシテハ、ドノ納税者モ今回ノ改正ニ依ッテ税ヲ上ゲラレルモノハ無イト云フコトニナッテ居リマス、而シテ衆議院ノ案ニ依リマス、總額約二百萬圓ノ減額ヲ生ズル、斯様ナコトニナリマスノデ、元來言ヒマスト負擔ノ衡平ヲ圖ルト云フコトカラ云ヒマスレバ、今日ノ税率ヲ政府ノ提出イタシマシタヤウニ直スノガ最モ理想ニ適シテ居ルト思ヒマスグレドモ、併ナガラ之ニ據リマスレバ唯今申上ゲマシタ通り、或ル人ハ現行ヨリモ幾分ノ税ノ増スコトハ免カレヌノデアリマス、之ニ反シテ衆議院ノ案ニ依リマスレバ唯今申上ゲマシタ通り、理想ノ方カラ言ヒマスト幾分力遠ザカッテ居リマスガ、何人モ税ノ増サレル者ハ無イト云フ結果ニナルノデ、ソレデ政府ノ方デハ十分熟考イタシマシタ上、理想トシテ原案ハ宜シニ相違ナイガ、現實ノ問題トシテ言ヘバ衆議院ノ修正ニ於テモ一理アリト認メテ居リマスノデ、唯今デハ衆議院ノ修正ニ對シテハ同意ヲ表シテ居ル次第デアリマス、ドウゾ御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○澤柳政太郎君 本案ニ付キマシテ御尋ネ致シタイト思フノデアリマス、唯今詳細ニ本案提出ノ理由ヲ御陳述ニナリマシタ通り、本案ハ負擔ノ衡平ヲ圖ルト云フコトガ趣意デアルト云フコトデアリマスガ、本案ニ於テ課税セラル、所ノ營業者ノ種目ガ二ツ殖エテ居ルノデアリマス、即チ出版業ト信託業デアリマスガ、想フニ信託業ハ現行ノ營業税法ヲ制定セラル、時ニ於テハ其發達ガ甚ダ微々タルモノデアッテ、營業税法課スルト云フ點カラ申シマスト眼中ニ無カッタモノデアルカ、或ハ課税ノ目的物トスルニ足ラナカッタモノデアラウカト思フノデアリマスガ、出版業ニ至ッテハ、サウ云フモノデハナイ、特別ニ現行ノ營業税法課スル理由ガ無イト云フコトヲ認メラレテ特ニ省カレタモノデアラウト信ズルノデアリマスガ、現行ノ法律ニ於テ出版業ヲ除カレタル理由ヲ第一ニ承リタイト思フノデアリマス、ソレカラ第二ニハ出版業ガ營業税ノ課税ノ目的ニナリマシタガ、悉クノ出版業ニ向ッテ課税セラル、ト云フコトニ、此法案ニ於テハナッテ居ラスノデアリマス、出版業ヲ二分シテ即チ新聞紙法ニ據ル所ノ出版業ニ向ッテハ依然トシテ課税シナイ、其他ノ出版業ニ向ッテ課税スルト云フコトニナッテ居リマス、其他ノ出版物ト申シマスレバ、重モナルモノハ中小學校ニ於ケル教科書等ノ出版物ガ大部分ヲ占メテ居ルノデアリマス、其外ハ純粹ノ學術上ノ出版物、教育上ノ出版物、文學

上ノ出版物デアリマスガ、何故ニ斯ノ如キ出版物ヲ營業トスル者ニ向ッテ課税シ單リ新聞紙法ニ據ル所ノ出版物ニ向ッテハ課税セストセラレタノデアルカ、ドウモ課税スベキモノデアレバ、共ニ課税セラレナケレバナラスシ、又課税セラレヌモノデアッタナラバ、共ニ課税セラレヌノガ最モ公平ナルコトデアラウト思ハレルノデアリマスガ、斯ノ如ク二ツニ區分シテ、一ハ免稅、一ハ課税スルト云フ理由ヲ承リタイト思フノデアリマス、第三ニハ尙ホ了解イタシ難イノハ、書物ト新聞ト云ヘバ稍々性質ヲ異ニ致シテ居リマスガ、同ジ雜誌ノ中デ新聞紙法ニ據ッテ出版スル所ノ雜誌ヲ營業トスル者、即チ政治、時事ヲ論談スル所ノ雜誌ヲ出版スル者ニ向ッテハ稅ヲ課セズシテ、純粹ナル學術、教育上ノ雜誌ヲ出版スル者ニ向ッテ課税スルト云フコトハ、ドウ云フ理由デアリマスガ、其邊ヲ承リタイト思フノデアリマス、ソレカラ第四ニハ先刻御話ニナリマシタ通り、課税ノ標準ハ今回ノ案ニ於キマシテハ餘ホド御審議ニナッテ定メラレテアルヤウニ承リマシタガ、出版業ニ於テ何故ニ此資本ノ金額ヲ課税ノ標準ト致シテ賣上金額ヲ標準ト致サナカッタノデアルカ、出版業ノ如キハ一面ヨリ言ヘバ物品販賣業デアッテ、寧ロ販賣金額ヲ標準トスルノガ最モ公平デハナイデハナカラウカト思フノデアリマス、ノミナラズ資本金額ヲ標準トシテ課税スル結果トシテ、我國デ最モ微々タル所ノ大ナル出版物ノ發達ヲ阻礙スルコトハ無カラウカ、大ナル立派ナル出版物ヲシャウト云フニハ多クノ資本ヲ要シ、資本ヲ固定シナケレバナラス、或ハ五年、或ハ十年、若クハソレ以上ノ年數ヲ掛ケテ漸ク出版物ガ出來ルコトデアラウト思フノデアリマスガ、斯ノ如キ出版物ニ向ッテハ此課税ノ標準ニ依ッテハ大ニ妨ゲニナルコトハ無カラウカ、本員ノ調査スル所ニ依ッテ見マスト、日本ニ於テ現在、年々出版スル出版物ノ種類ハ、新聞紙ヲ除キマシテ一年ニ三萬種ノ多キニ達シテ居リマス、然ルニ英吉利ノ如キ、米國ノ如キ、出版物ノ種類ハ年々我が三分ノ一ニ足ラスノデアリマス、是ハドウ云フコトヲ示シテ居ルノデアアルカト申シマス、日本ニ於テハ片々タル小出版物ガ多イノデアアルガ、大ナル資本ヲ要スル如キ大出版物ノ未ダ發達シナイト云フ事實ニ基イテ居ルモノデアラウト思フノデアリマスガ、斯ノ如キ此課税ノ標準ヲ資本金額ニ取ルト云フコトハ、以上ノ如キ大ナル出版物ノ發達ヲ妨ゲルコトハ無イデアラウカ、ソレデ出版業ト申セバ或ル意味カラ申セバ物品販賣業ト看做スコトガ出來ルノデ、販賣金額ニ依ルト云フコトガ最モ公平デアルヤウ

ニ思フノデアリマスガ、何故ニ資本金額ニ標準ヲ取ラレタノデアリマスカ、其邊ヲ承リタイノデアリマス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 現行法ニ出版業ノアリマセヌノハ、當初ノ考ヘデハ出版業ハ印刷業若クハ物品販賣業トシテ課稅シ得ラル、モノト思ウテ居ッタノデアリマス、併ナガラ稅法ヲ實行シテ見マス、其何レニモ屬セヌト云フコトヲ發見イタシマシタカラ、是マデハ法文ノ缺文デアッタノデアリマス、之ヲ今回、課稅ヲ衡平ニスル以上ハ同ジク營業者デアアル印刷業者ニ課稅セラレテ出版業者ニ課稅セラレヌト云フノハ不公平デアルト云フ、斯ウ云フ意味ヲ以テ出版業ヲ今回追加スルコトニ致シマシタノデアリマス、ソレカラ第二ノ御尋ネノ新聞紙法ニ據ルモノハ課稅ヲセヌデ、其他ノモノハ課稅スルノハ如何ナル趣意デアアルカト云フ御尋ネニ對シテハ、新聞紙法ニ據リマスモノハ單リ營業ノ意味ヲ以テノミ出版ヲシテ居ルモノトハ致シテ居リマセヌノデ、是ハ或ハ自己ノ政見ヲ發表スルトカ、其他自分ノ意見ヲ世間ニ述ベタイトカ云フ意味ヲ以テ出シテ居ルモノト見ナケレバナラヌノデ、其方ニ向ッテハ營業稅ヲ課ケヌト云フ趣意デ之ヲ除キマシタ、第三ノ御尋ネハ唯今申上ゲタノデ自ラ分リマス如ク、同ジ雜誌ノ中デモ新聞紙法ニ據ラヌモノハ詰リ營利ノ目的ヲ以テ出スモノト見ナケレバナラヌカラ、苟モ營業ヲシテ居リマスレバ國民平等ニ營業稅ヲ納メルノガ至當デアアル、斯ウ云フノデ是ハ除イテ居リマセヌ、最後ノ御尋ネハ賣上ノ高ヲ標準トセヌデ資本金ヲ標準トシタノハ如何ナル譯カト云フ御尋ネハ出版業ハ、印刷業ニ一番能ク類似シタ業體ト、斯ウ見テ居リマス、而シテ印刷業ガ今日ハ資本金ヲ標準トシテ課稅スルコトニナッテ居リマスル以上ハ、出版業ニ付イテモ同ジク資本金ヲ標準トスル方が相互ノ間ノ權衡ガ保タレル次第デアアル、斯様ニ見テ居リマス

○澤柳政太郎君 尙ホ一應伺ヒタイト思フノデアリマスガ、新聞紙法ニ據ル出版物ハ自己ノ意見或ハ政見ヲ發表スルノデ、營業ヲ目的トシタモノデナイト云フ御說明デアリマスガ、然ラバ他ノ出版物ハ營利ヲ目的トシタモノデアッテ自分ノ學說ヲ發表シヤウト云フヤウナモノデナイ、營利ヲ目的トシタモノデアルト云フ御見込デアリマセウカ、其邊ヲ承リタイト思ヒマス、ノミナラズ私ノ考ヘル所ニ依ルト、若シ此出版物ノ中ニ課稅スベキモノト、課稅スベカラザルモノト分テバ新聞紙ノ如キハ寧ロ課稅スベキモノデハナイカ、ナ

ゼナラバ知識ヲ普及スルトカ、或ハ人文ノ發達ニ資スルトカ云フ點ニ於テハ、他ノ出版物ト同様ナリト致シマシテモ、今日ノ新聞紙ト云フモノハ諸般營業ノ廣告機關トシテ隨分多額ノ廣告料ヲ徵收シ居ルモノデアアルノデアリマス、然ルニ他ノ書物ニ至リマシテハ、斯ノ如キ機關ニ供セラレテ居ルモノデハナイノデアリマスカラ、寧ロ新聞紙ノ如キモノコソ、其間ニ強ヒテ區別ヲ立テルト云ヘバ課稅スベキモノデアラウト思フノデアリマスガ、其邊モ併セテ承リタイ

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 著書ヲ致シマス人、其人ハ無論、自己ノ意見ヲ發表スル爲ニ著書ヲスルノデアラウト思ヒマスノデ、其著書イタシマス人ハ營利ノ目的ノ無イノガ多イカモ知レマセヌガ、出版業トナッテ其著書ヲ出版シテ販賣スル人ニナリマス、是ハ營利ノ目的ヲ以テ爲スノガ普通デアリマスカラ、ソレ故ニ營業稅法ノ表ニ於テハ之ヲ營利ノ目的アル業者ト見テ居ルノデアリマス、ソレカラ新聞紙ニ付イテハ如何ニモ今日或ハ中ニハ營利ノ目的ヲ以テ居ルノガアルカモ知レマセヌ、ケレドモ是ハ營利ノ目的モ含マレテ居ルガ、同時ニ又唯今申上ゲルヤウニ自己ノ政見ヲ發表シヤウト云フノモアッテ共ニ兩方ヲ含ンデ居リマスカラ、皆一概ニ之ヲ營業者トシテ營業稅ヲ課スルニ及バヌト、斯ウ認メタノデゴザイマス

○伯爵德川達孝君 本案ノ特別委員ハ議長指名ノ十八名ノ委員ニ付託サレムコトヲ希望シマス

○子爵曾我祐準君 贊成

○下條正雄君 贊成

○子爵三島彌太郎君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第五ノ法案ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシタイト云フ德川伯爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第六、輕便鐵道法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

輕便鐵道法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

輕便鐵道法

〔小字ハ衆議院ノ修正ハ同削除ノ符號〕

第一條 輕便鐵道ヲ敷設シ一般運送ノ用ニ供セムトスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

一 起業目論見書

二 線路豫測圖

三 敷設費用ノ概算書

四 運送營業上ノ收支概算書

第二條 主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ免許ニ條件ヲ附スルコトヲ得

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許ニ指定シタル期限内ニ線路實測圖、工事方法書及工費豫算書ヲ提出シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ會社ニ在リテハ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條 線路ハ之ヲ道路上ニ敷設スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ必要ナル

於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 私設鐵道法第二十條、第四十一條、第四十二條、第五十三條乃至第五十五條及第八十條ノ規定ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス

第六條 鐵道營業法ハ之ヲ輕便鐵道ニ適用ス

第七條 明治四十二年法律第二十八號ハ輕便鐵道ノ抵當ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ニ依リ運送ノ業ヲ爲ス者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ鐵道船舶郵便法ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前免許又ハ特許ヲ受ケタル鐵道及軌道ニシテ將來本法ニ依ラシム

ヘキモノハ主務大臣之ヲ指定ス

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵後藤新平君) 本案提出ノ理由ヲ一言イタシマス、輕便鐵道法案ハ地方交通機關ノ用ニ供スル鐵道ノ架設ニ付キマシテ輕便ノ方法ヲ以テ普及スルコトヲ圖ラムトスルノニ在ルノデアリマスガ、是マデハ私設鐵道法ト軌道法トアリマシテ、此私設鐵道法ニ據ラズシテ簡易ナル交通ノ便ヲ探ラムトスレバ軌道法ニ據ルノ外ハ無イヤウニナツテ居リマスル、然ルニ此軌道法ナルモノハ御承知ノ通り道路ノ補助機關トシテ交通ニ便スルモノデアリマスルガ故ニ、主トシテ道路ニ敷設イタシマスルノデアリマス、然ルニ道路ニ敷設スルガ爲ニ其交通者ノ安全ヲ圖ルノ要ガアリマシテ、此列車ノ聯結其他ニ制限ヲ加ヘネバナラスト云フコトモアリマス、而シテ又或ル地方ニ於キマシテハ道路ニ依リマセズデ、他ニ敷設ノ敷地ヲ取リマシテ、軌道ヲ敷イテアル所モアリマスガ、是ハ破格デアリマシテ、斯ノ如キ地方ヨリ見マス、列車ノ編成ヲ致シテモ宜イヤウニ見エル所モアルノデアリマス、斯ノ如クニシテ益、此私設鐵道法ノ取除ケト致シマシテ輕便鐵道法ノ必要ヲ喚ブ形勢ニナツテ居ルノデアリマス、此私設鐵道法ノ取除ケトモ申スベキ輕便鐵道法ノ發布セラル、ニ方リマシテ、是マデノ如ク此免許ノ手續、竝ニ經營ニ係ル所ノ複雜ナル取締等ヲ簡易ニシテ交通ノ機關ヲ便ニスルト云フコトガ出來ルヤウニナルノデアリマス、要スルニ交通線路網ヲ構成イタシマスニ、一方ハ現在ノ狹軌鐵道、一方ハ軌道ニ限ツテ居リマシタモノニ輕便鐵道法ガ出マシテ、輕便鐵道線路モ軌道線路モ三箇ノ種類ノ交通線路網ヲ構成イタシマシテ交通ノ全體ノ便ヲ圖ラウト云フノデアリマス、衆議院ニ於キマシテモ一二修正ヲセラレタル所ガアリマスガ、是等修正ニハ政府モ同意ヲ表シテ居ル所ノモノデアリマス、本院ニ於テモ御審議ノ上、協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第七、漁業法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

漁業法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付

候也

明治四十三年三月十一日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長 長谷場 純孝

〔小字ハ衆議院ノ修正
ハ同削除ノ符號〕

漁業法

第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水產動物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ入漁權ヲ享有スル者ヲ謂フ

第二條 公共ノ用ニ供セサル水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス

第三條 公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セサル水面ニハ本法ヲ適用ス

前項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業

ニ關スル之カ利用ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得

第四條 漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區劃シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

第五條 水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ漁業組合カ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタル場合ノ外之ヲ與ヘス

第六條 前二條ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ受ケシムル必要アリト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 入漁權者ハ設定行爲又ハ舊法施行前ノ慣行ニ從ヒ他人ノ專用漁業權ニ屬スル漁場内ニ入會ヒ其ノ專用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス

第八條 漁業權ハ物權ト看做シ土地ニ關スル規定ヲ準用ス

民法第二編第九章ノ規定ハ漁業權ニ之ヲ適用セス

第九條 漁業權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ其ノ漁場ニ定著シタル工作物ハ民法第三百七十條ノ準用ニ關シテハ漁業權ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ト看做ス

九

第十條 裁判所ノ土地ノ管轄カ不動產所在地ニ依リテ定マル場合ニ於テハ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃ヲ以テ不動產所在地ト看做ス

第十一條 漁業權ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更スルコトヲ得ス

地先水面專用ノ漁業權ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十二條 漁業權者ノ有スル水面使用ニ關スル權利義務ハ漁業權ノ處分ニ從フ

第十三條 入漁權ハ物權ト看做ス

入漁權ハ相續及讓渡ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第十四條 入漁權ハ漁業權者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ處分スルコトヲ得ス

第十六條 漁業權ノ存續期間ハ二十年内ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依ル但シ第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ之ヲ算入セス

前項ノ期間ハ漁業權者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條 設定行爲ニ於テ存續期間ニ付別段ノ定ナキ入漁權ハ目的タル漁業權ノ存續中存續スルモノト看做ス但シ入漁權者ハ何時ニテモ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第十八條 入漁權者カ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得

入漁權者カ引續キ二年以上入漁料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産若ハ家資分散ノ

宣告ヲ受ケタルトキハ漁業權者ハ入漁權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 入漁料ハ入漁ヲ爲ササルトキハ之ヲ支拂フコトヲ要セス

第二十條 入漁權ニ關シ前三條ノ規定ニ異リタル慣行アルトキハ其ノ慣行ニ從フ

第二十一條 行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十二條 漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ一年間其ノ漁業ニ從事スル者ナキトキ又ハ引續キ二年間休業シタルトキハ行政官廳ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十三條 行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲ササル期間及第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ前條ノ期間ニ之ヲ算入セス

第二十四條 水產動植物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊緊留^{○水底電線ノ敷設}若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アルトキ又ハ公益上害アルトキハ主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

漁業權者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ^{○ハ漁業ヲ制限シ又ハ停止スルコトヲ得}

○亦前項ニ同シ

第二十五條 錯誤ニ依リ漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十六條 免許漁業原簿ノ登錄ハ登記ニ代ハルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 漁業免許ノ取消アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ之ヲ登錄シタル抵當權者及先取特權者ニ通知スヘシ

前項ノ權利者ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ漁業權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十四條第一項又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁業權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依リ賣得金ハ競賣ノ費用及第一項ノ權利者ニ對スル債務ノ辨濟ニ

充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セザリシモノト看做ス

第二十八條 漁業權ハ登錄シタル權利者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ分割、變更又ハ拋棄スルコトヲ得ス

第二十九條 漁業者ハ左ニ掲クル目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ立木竹若ハ土石ノ除去ヲ制限スルコトヲ得

一 漁場ノ標識ノ建設

二 魚見若ハ漁業ニ關スル信號又ハ之ニ必要ナル設備

三 漁業ニ必要ナル目標ノ保存又ハ建設

第三十條 漁業者ハ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ特別ノ用途ナキ他人ノ土地ニ立入り漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前二條ノ目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り支障木竹ヲ伐採シ又ハ障礙物ヲ除去スルコトヲ得

第三十二條 前三條ノ行爲ヲ爲ス者ハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ爲ニ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘシ

第三十三條 行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第三十四條 地方長官ハ水產動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一 水產動植物ノ採捕ニ關スル制限又ハ禁止

二 水產動植物若ハ其ノ製品ノ販賣又ハ販賣ノ爲ニスル所持ニ關スル制限若ハ禁止

三 漁具又ハ漁船ニ關スル制限若ハ禁止

四 漁業者ノ數又ハ資格ニ關スル制限

五 水產動植物ニ有害ナル物ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止

六 水產動植物ノ蕃殖保護ニ必要ナル物ノ採取又ハ除去ニ關スル制限若ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

前二項ノ命令ニハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ノ沒收並犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ價額ノ追徴ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十五條 汽船「トロール」漁業又ハ汽船捕鯨業ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ漁業ニ關スル制限又ハ禁止ハ主務大臣之ヲ定ム

第三十六條 爆發物ヲ使用シテ水產動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ海獸捕獲ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 主務大臣ハ遼河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ水面ノ一定區域内ニ於ケル工作物ノ設置ニ付制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ遼河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者又ハ占有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第三十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ニ付權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

前項ノ補償金額ニ付不服アル者ハ補償金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 公共ノ用ニ供セサル水面ニシテ公共ノ用ニ供スル水面又ハ第三條ノ水面ニ通スルモノニハ命令ヲ以テ第三十四條、第三十六條乃至第三十八條、第五十五條及第五十九條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四十條 漁業ニ従事スル者ノ雇傭並雇人及遺族ノ扶助ニ關シテハ勅令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得

第四十一條 海軍艦艇乗組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏又ハ漁業監督吏員ハ漁業ヲ監督シ必要アリト認ムルトキハ船舶、店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス但シ同法第四條ノ規定ハ漁業監督吏員以外ノ者ニ之ヲ準用セス

漁業監督吏員ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 一定ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得

漁業組合ノ地區ハ市町村ノ區域又ハ市町村内ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキモノヲ以テ前項ノ市町村ト看做ス

北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第四十三條 漁業組合ハ法人トス

漁業組合ハ漁業權若ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス

漁業組合ハ自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得ス

組合員ハ漁業組合ノ取得シ若ハ貸付ヲ受ケタル專用漁業權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十四條 漁業組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

漁業組合聯合會ハ法人トス

第四十五條 漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

第四十六條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條 行政官廳ハ何時ニテモ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ事業ニ關スル報告ヲ徴シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令、監督官廳ノ命令若ハ規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリ

行政
リト認ムルトキハ監督官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消

二 役員ノ解職

三 組合又ハ聯合會ノ解散

第四十九條 本法ニ規定スルモノノ外漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立、登記、管理、分合、解散、清算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ於テ本法中特ニ組合又ハ聯合會ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル組合又ハ聯合會ニ關スル命令ニ於テハ組合又ハ聯合會力之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

前二項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 漁業者又ハ水產動物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水產業ノ改良發達及水產動物ノ蕃殖保護其ノ他水產業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲水產組合ヲ設クルコトヲ得

第五十二條 水產組合成立シタルトキハ其ノ地區内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ニ加入シタルモノト看做ス但シ主務大臣ニ於テ加入ノ義務ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條 水產組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲水產組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

第五十四條 水產組合及水產組合聯合會ハ法人トシ重要物產同業組合法ヲ準用ス

第五十五條 漁業ノ免許若ハ許可ノ出願又ハ期間更新ノ申請ニ對スル許否ニ不服アル者及第三條第二項、第二十二條、第二十四條、第二十五條若ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

○若ハ入漁權
第五十六條 漁場ノ區域、漁業權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ之ニ關スル裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十七條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付前條ノ規定ニ依ル裁決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 免許ニ依ラス若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者

二 免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者

專用漁業ノ停止中其ノ漁場ニ於テ停止シタル○

三 漁業停止中ノ專用漁場ニ於テ○漁業ヲ爲シタル者

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

汽船トローラ漁業ニ關シ○

○ニ違反

第五十九條 ○第三十五條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止○又ハシタル者ハ五千圓以下ノ罰金、汽船捕鯨業ニ關シ同條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止第三十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

○又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利

第六十條 漁業權○ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十一條 漁場ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十二條 第四十一條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者及臨檢搜索ノ際當該吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十三條 營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

第六十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

第六十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 本法ハ臘虎及臘豚獸ノ漁獵ニ之ヲ適用セス

第六十八條 本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條 舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス

本法施行前ニ發生シタル入漁權ニ關シ亦前項ニ同シ

第七十條 本法施行前免許漁業原簿ニ登錄シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限リ之ニ依リ登錄シタルモノト看做ス

第七十一條 舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ專用漁業免許後一年間ニ限リ登錄ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第七十二條 本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴願又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第七十三條 舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本法施行後一年間ニ限リ登記ナキモ其ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

〔政府委員押川則吉君演壇ニ登ル〕

○政府委員(押川則吉君) 唯今議題ニナリマシタ漁業法ハ、現行ノ分ハ三十

五年ノ七月ヨリ施行セラレマシタ法律デゴザイマシテ、之ニ依ッテ漁業免許ナドハソレノ處分ヲ致シツ、アルノデゴザイマスガ、此施行以後ノ經驗ニ依リマシテ今回更ニ法律ノ改正ノ必要ヲ認メマシタノデゴザイマス、漁業ノ資金ノ融通ヲ付ケルト云フコトハ豫ネテ漁業界ノ問題トナツテ居ルコトデゴザイマシタガ、今回勸業銀行、農工銀行、拓殖銀行等ノ法律ニ改正ヲ加ヘテ、此漁業資金ノ途ヲ開クト云フコトニナル案ヲ既ニ衆議院ニ政府ヨリ提出ニナツテ居リマス、之ト共ニ漁業法ノ改正ヲ致シマシテ漁業權ヲ抵當權ノ目的ニスルト云フコトノ必要ガアルノデゴザイマシテ、是ガ今回此法律ヲ改正スル第一ノ要點デゴザイマス、漁業權ノ效力ヲ確實ニスルト云フコトハ單リ資金ノ融通ヲ圖ルト云フコトノ上カラ必要ナルノミナラズ、其他ニ於テモ漁業上漁業權ノ效力ヲ確實ニスルト云フコトハ最も必要ナルコトガアルノデゴザイマス、ソレカラ此入漁權ノコトモ更ニ此規定ヲ確實ニ致シマシテ、入漁權ノ登錄ヲ以テ第三者ニ對スル效力ノ對抗要件トスルト云フコトノ必要ヲ感ズルノデアリマス、次ニハ現行ノ法律ニ於テ漁業組合ヲ設ケルコトニナツテ居リマスケレドモ、其實行上ニ於テ不十分ナ點ヲ感ズルノデアリマシテ、更ニ漁業組合ノ目的ト竝ニ施設ノ範圍ヲ擴張シ且ツ漁業組合ノ聯合會ト云フモノヲ認メルヤウニ致シタイト思フノデアリマス、尙ホ其次ニハ此漁業ヲ行フ上ニ於テ其利便ヲ圖ルガ爲ニ又漁業ノ取締ヲ行フ爲ニ、多少ノ改正ヲ必要ト致スノデゴザイマス、ソレ等ノコトガ此改正法律ノ要點デゴザイマスカラ、ソレ等ノコトニ付イテ、ソレノ規定ヲ設ケタ次第デゴザイマス、衆議院ニ於キマシテ多少ノ修正ガアッタノデゴザイマスガ、此修正ニ付イテハ政府ニ於テハ格別ノ異議ハ無イノデゴザイマスカラ、ドウカ此案ノ御審議ヲクダサツテ御同意クダサルコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 諸君ニ御諮リヲ致シマスガ、此漁業法改正法律案ハ遠洋漁業獎勵法中改正法案ノ委員ニ付託シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第八、北海道土功組合法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

北海道土功組合法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十一日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長 長谷場純孝

北海道土功組合法中改正法律案

北海道土功組合法中左ノ通改正ス

第一條 區町村又ハ區町村組合ノ事業ト爲スコトヲ得サル特別ノ事情アル場合ニ於テ農業上必要ナル道路、橋梁、用水、排水又ハ堤塘等ヲ施設維持スル爲土功組合ヲ設置スルコトヲ得

第三條 組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其ノ地區内ニ土地ヲ所有スル者ヲ以テ組合員トス但シ御料地又ハ國有地ニ付テハ其ノ貸付ヲ受ケタル者ヲ以テ組合員トス

第五條 組合ノ廢止及地區ノ變更ハ總會ノ議決ヲ經テ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ地區變更ノ場合ニ於テ新ニ組合地區ニ編入セラルヘキ土地アルトキハ之ニ依リ組合員タルヘキ者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條 組合ノ徵收金ノ督促ニ關シテハ區町村稅ノ例ニ依ル
組合ノ徵收金ニ關スル滯納處分ハ組合ノ請求ニ依リ區町村長又ハ戸長ニ於テ區町村稅ノ例ニ依リ之ヲ行フ

組合ノ徵收金ハ區町村ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徴、還付及時效ニ付テハ區町村稅ノ例ニ依ル

〔國務大臣男爵平田東助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵平田東助君) 本案提出ノ理由ニ付キマシテ一言陳述イタシマス、本案ハ曩ニ三十五年ニ發布イタシマシタ所ノ法律デゴザイマスルガ、爾來實驗イタシマシタ所ニ徵シマスルト云フト、現行法ニ依リマスルト云フト土地所有者ノ常組合ニ加入スルト否トハ全ク任意ニナツテ居リマスノデ、從ウテ組合ノ員數モ段々少ナクナルト云フ現況ニ至リ、從ツテ此組合ノ事業ニ投資スル所ノ資本家モ從ツテ疑懼ノ念ヲ懷キ資本ノ缺乏ヲ告グルト云フコトデゴザイマス、從ツテ此事業ノ發展ヲ大ニ阻害スル現況デゴザイマス、依

リマシテ今回提出イタシマシタ所ノ法案ニ於テハ、其土地ニ在ル所ノ所有者ハ必ズ之ニ加入スルコトニ致シ、又其組合ノ費用ニ供スル所ノ資金ニ付キマシテモ、市町村稅ニ次イデ先取特權ヲ有セシメルコトニ致シテ、以テ組合ノ基礎ヲ鞏固ニ致シ、從ツテ北海道拓殖ノ基礎ヲ確立イタシタイト云フ者ヘヲ以テ茲ニ提出イタシタノデゴザイマス、何卒御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第九、那覇港修築工事ヲ沖繩縣ニ引繼ク事ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

那覇港修築工事ヲ沖繩縣ニ引繼ク事ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十三年三月十一日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長 長谷場純孝

那覇港修築工事ヲ沖繩縣ニ引繼ク事ニ關スル法律案

第一條 國庫ノ支辨ニ屬スル沖繩縣那覇港修築工事ニシテ明治四十二年度内ニ終了セサルモノハ沖繩縣ヲシテ之ヲ繼承執行セシム

第二條 前條ニ依リ執行スヘキ工事ノ費用ハ沖繩縣ノ負擔トス但シ政府ハ那覇港修築費豫算ノ定額内ニ於テ其ノ工事費ニ充用スヘキ金額ヲ明治四十二年度末日ニ於テ沖繩縣ニ交付ス

第三條 那覇港ノ修築ニ關シ國ニ屬スル土地物件ハ修築工事ノ引繼ト同時ニ之ヲ沖繩縣ニ交付ス

第四條 修築工事ニ關シ國ニ屬スル契約上ノ權利義務ハ明治四十三年度ノ初ニ於テ沖繩縣ニ繼承ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣男爵平田東助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵平田東助君) 本案提出ノ理由ニ付キマシテ一言イタシタイ

ト思ヒマス、沖繩縣那覇港ノ修築工事ハ從來、國ニ於テ之ヲ施行イタシテ參ッ
タノデゴザイマスガ、今年度ヨリ致シマシテ沖繩縣ニ府縣制ヲ施キマスコト
ニナリマシタニ付キマシテ、同縣ニ於テ從來、國デ施行イタシテ居ッタ所ノ
工事ノ全部ヲ引受ケ、竝ニ其工費ニ屬スル殘額及土地物件等ヲ引繼ギマシ
テ、殘工事ヲ同縣ニ於テ施行イタシタイト云フコトヲ縣會ノ議決ヲ經テ知事
ヨリ申請イタシテ參ッタノデゴザイマスル、元來此工事ハ縣ニ於テ施行イタ
スノハ其性質ニ於テ當然ノコトト考ヘマスルデ、旁、以テ此際同縣ニ工事ヲ
引繼ギタイト思ヒマスルニ依ッテ本案ヲ提出イタシマシタノデゴザイマス、
何卒御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十、間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關ス
ル法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵寺島誠一郎君演壇ニ登ル〕

○伯爵寺島誠一郎君 議事日程ニ上ボリマシタ案ノ御報告ヲ致シマス、此委
員會ハ二回開會イタシマシテ、委員會ニ於キマシテ地理的質問ヤラ又日清關
係ノコトニ付キマスル質問、又法律關係ニ付イテノ質問、竝ニ實際的ノ數多
クノ質問ガゴザイマシテ、之ニ對シマスル政府ノ詳細ナル答辯、竝ニ說明ヲ
聽キマシテ、慎重ナル審査ノ結果、之ヲ可決スベキモノナリト議決シテ御報
告イタス次第デアリマス、其最モ重モナル理由ノ概略ヲ申上ゲマスレバ、明
治四十二年九月四日、滿洲ニ於ケル諸案件ヲ解決イタシマシタ協約ト同時ニ、
北京ニ於テ締結サレマシタ間島ニ關スル日清協約ニ據リマシテ間島ハ確實ニ
清國ノ領土デアルト云フコトヲ認メマシタ、其當然ノ結果トシテ我國ハ間島
ニ在リマシタ所ノ統監府派出所ヲ同年十一月ニ至ッテ撤退イタシマシタ、而
シテ新ニ此協約ニ基イテ龍井村ニ總領事館、竝ニ局子街、頭道溝、百草溝ニ

其分館ヲ設置スルコトニナリマシタ、是等ノ四箇所ノ管轄區域内ニ在ル所ノ
數多ノ日韓人ハ、其保護、竝ニ其裁判ヲ我が領事官ニ於テ行フコトニナッ
タノデアリマス、チヨット申添ヘテ置キマスルガ、明治三十八年十一月ノ日韓
協約ニ據リマシテ、韓國ハ其司法權ヲ我國ニ委託シタノデアリマス、韓國人
ノ保護ハ我國之ニ任ズルコトニナッタノデアリマス、デ間島ニ在ル所ノ是等
ノ四箇所ノ領事官管轄區域内ニ居ル所ノ韓人ノ保護、竝ニ其裁判ハ、我が領事
官ニ於テ行フコトニナッタノデアリマス、ソレデ間島ニ駐在スル我が領事官
ノ豫審ヲ爲シタル死刑等ノ公判又ハ其爲シタル各種ノ裁判ニ對シテノ控訴、
抗告ハ今日マデ其場合ハ唯一遍モ無カッタサウデアリマスガ、若シ有ッタ
トシマスレバ是等ノ管轄ハ關東都督府法院又ハ長崎ノ地方裁判所又ハ控訴院
ニ於テスル筈デアアルノデゴザイマス、トコロガ間島ノ地タル僻遠ニシテ長崎
ニ參ルニモ、又大連ニ參ルニモ、行路困難、非常ナル時間ヲ費ヤシ、且ツ
裁判上ノコトニナリマスルト、ソレガ爲ニ又手續ノ煩雜ヲ來タスト云フ次第
デアリマシテ、甚ダ不便ナノデアリマスガ、間島ノ韓國境ノ豆滿江ト一水ヲ
距テマスレバ韓國ニ這入ッテ、今日デハ統監府ノ日本ノ裁判所、控訴院ガ設立
サレテ居ルノデアリマスガ故ニ、此案ニアリマスル通リニ先キホド申シマシ
タ間島ニ駐在スル我が領事官ノ豫審ヲ爲シタル死刑等ノ公判、又ハ其爲シタ
ル各種ノ裁判ニ對シテ控訴抗告ヲ統監府ノ地方裁判所又ハ控訴院ヲシテ管轄
セシムルナラバ、間島ニ居ル我が日韓人ノ權利ノ保護、又其裁判ノ迅速ヲ圖
ル上ニ於テ、多大ノ便宜ガアルト云フコトヲ認メマシタ、ソレデアリマスカ
ラ委員會ニ於キマシテハ、此特別法律ノ制定ヲ至當ナリ必要ナリト認メテ可
決イタシマシタノデアリマス、兩三年前、此本院ニ於キマシテ、之ト同ジ趣
意ニ依ッテ出來テ居リマスル滿洲ニ於ケル領事裁判ニ關スル法律案ト云フノ
ヲ可決サレマシタ、其同ジ御精神ニ依リマシテ此案モ可決セラレムコトヲ希
望イタシマス、至ッテ簡單明瞭ナル案デゴザイマスガ故ニ、讀會ヲ省略シテ
直チニ可決確定アラムコトヲ申出マス

○鎌田榮吉君 讀會省略ニ賛成

○伯爵柳澤保惠君 讀會省略ニ賛成

○伯爵德川達孝君 讀會省略賛成

○子爵新莊直陳君 讀會省略賛成

○男爵金子有卿君 讀會省略ニ賛成

○男爵北島齊孝君 讀會省略ニ賛成

○男爵關義臣君 讀會省略ニ賛成

○伯爵大原重朝君 讀會省略ニ賛成

○伊澤修二君 讀會省略ニ賛成

○男爵高木兼寛君 讀會省略ニ賛成

○議長(公爵徳川家達君) 寺島伯爵ノ讀會省略ノ動議ハ定規ノ賛成ガゴザイマシタ、寺島伯爵ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十一、裁判所構成法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、第十二、裁判所構成法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告、特別委員長關男爵

裁判所構成法中改正法律案(衆第三號)

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月九日

右特別委員長

男爵 關 義 臣

貴族院議長公爵徳川家達殿

裁判所構成法中改正法律案(衆第六號)

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月九日

右特別委員長

男爵 關 義 臣

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔男爵關義臣君演壇ニ登ル〕

○男爵關義臣君 唯今議題ニ上ボリマシタ裁判所構成法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告ニ及ビマス、唯今ノ名義ハニツアリマスルガ、日程ノ第十一ノ方ノ御報告ヲ申シマス、此案ハ衆議院ノ提出案デアリマシテ理由書ハ附イテナカッタノデアリマス、ソコデ委員會ニ於キマシテハ政府委員ハ固ヨリ……衆議院ノハ委員會、本會ニモ干與セラレタノデアルノデ、此理由ト云フモノハ如何デアラウカト政府委員ニ尋ネマシタ所ガ、政府委員ハ衆議院ノ案ニ添ウタル理由書ヲ示サレマシタ、其理由書ハ何カ貯ヘガアリマシタカ、委員一同ニ分配セラレタコトデアリマス、先ヅ其理由ヲ申上ゲタウゴザイマスガ、衆議院ノ理由書ニハ

我カ國現時ノ審判狀態ニ照スニ之ヲ減員シテ何等ノ支障ヲ見サルノミナラス一ハ以テ尙ホ司法官優遇ノ資ニ供シ一ハ以テ裁判事務ノ進捗ノ途ヲ開カムトス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

トアル、ソコデ「一ハ以テ司法官優遇ノ資ニ供シ」ト云フモノハ衆議院委員會デ撤回ニナッタサウデゴザイマス、ソコデ此理由ト云フモノハ構成法四十二條カラ五十三條マデニアル間ノ大審院ノ合議裁判ハ七人デ致スノデアアル、又控訴院ノ合議裁判ハ五人デ致スノデアアル、然ルニ此理由ハ、現時ノ審判狀態ニ照シテ見ルニ、之ヲ減員シテモ何等ノ差支ハナイト、斯ウ云フコトニナツテ居ル、サウシテ「一ハ以テ裁判事務ノ進捗ノ途ヲ開カムトス」デ、右大審院ノ七人ヲ五人ニ減ジ、控訴院ノ五人ヲ三人ニ減ジ、減ジタ人員ヲ以テ更ニ新タナル部ヲ設ケテ而シテ審判事務ヲ設ケタ部ト舊ノ部トソレヲ別ツテ審判シタラバ大ニ裁判事件モ捗取ツテ行クデアラウ、斯ウ云フ理由デアリマス、是ハ甚ダ簡單ナヤウニアリマスルケレドモ、隨分構成法ノ大ナル法律ニ關係スルコトデモアルシ、委員會デモ先ヅ政府ノ意見ハ如何デアアルカ聽イテ見ヤウト云フコトデ政府委員ニ尋ネタコトデアリマス、政府ノ意見ハ此法律案ノ意味ニ於テハ多少審理ノ時間ヲ減縮スルコトハ出來ルダラウケレドモ、此減縮スル利益ト比較ノ正確ナル裁判ヲ得ルノ利益トハ何レガ大ナルヤ、固ヨリ熟考セニヤナラスコトデアアル、五人デ爲ス裁判ハ三人デ爲ス裁判ヨリモ比較ノ正確ナリト云フコトハ理ノ當然デアラウ、又五人デ爲ス裁判ヨリモ七人デ爲ス裁判ノ方ガ勿論正確ヲ得ルコトモ是亦同様デアラウ、合議制度ノコトハ多數デスルハ……ヨリ多數デスルハ本體ノ質デアアルガ、人員ガ多ケレバ多キホド裁判ノ正確ナルヲ得ラル、ト云フコトハ是ハ當然ノ結果デアアル、人員ヲ減

ジテ、部ヲ増シテサウシテ裁判ヲ抄取ラセヤウト云フ利益ヲ得ルト見テモ、ソレヨリハ寧ロ部ガ少ナウテモ正確ノ裁判ヲ得ラル、方ノ利益ガ大デハアルマイカ、デ提出者ハ人員ヲ減少スルモ我國ノ現時ノ審判狀態ニ照ラシテ何等ノ差支モナイト言ウテ居ルケレドモ、其意ヲ推シテ見レバ一體、控訴院、大審院ニ於ケル減ジタ判事……減ズベキ二名ノ判事ト云フモノニ於テハ畢竟其職責ヲ盡サナイヤウデアル、之ヲ減ジテモ差支ガナイノデアラウト云フコトデアッテ、若シ判事ノ知識經驗ガ増進シタ結果デアッテ、現在ノ多數ノ判事が要ラスト云フコトデアリマスレバ、是ハ政府モ随分悦ブベキコトデアアルケレドモ、果シテ減員シテ差支ナキヤ否ヤト云フコトハ輕々ニ斷定スルコトハ出來ヌコトデアアル、次ニ又此法律改正案ノ如キ、區裁判所ノ上告事件ト云フモノハ控訴院ノ三人ノ判事デ裁判セニヤナラヌコトニモナルデアラウ、三名ノ判事デ上告事件ヲ、法律ヲ解釋シ、一定スルト云フノハ或ハ危險デアラウ、從ッテ又改正案ノ如クスル場合ニハ、區裁判所ノ上告事件ト雖モ總テ之ヲ大審院ニ管轄セシメナケレバナラヌコトガ出來ルカモ知レヌ、故ニ此改正案ト云フモノハ上告審理ノ一ノ問題トモ牽連スルモノデアアル、要スルニ此改正案ノ利害得失ヲ斷定スルニハ、種々ノ方面ヨリ此問題ヲ調査シテ慎重ニ講究ヲ爲スノ必要ガアル、政府ハ此問題ニ付イテハ、未ダ其可ナリヤ否ナリヤヲ解決スルノ時機ニ到達シテ居ラス、依ッテ目下ノ狀態ニ於キマシテハ現行ノ制度ヲ維持スルヨリ外ハナイ、到底衆議院案ハ同意ガ出來ヌ、斯ウ云フ趣意デアリマスル、ソコデ追々委員諸君ヨリ質問モアリマシテゴザイマスガ、至ッテ簡單ニ申上ゲマセウガ、委員ノ一人カラ司法始審デ三人デ合議スル裁判ヲ控訴院デ三人ノ裁判官ガ審理判決ヲシテ果シテ差支ナキモノデ、相當ノ判決ガ出來得ルトスレバデヤ、大審院モ同様デ、何ゾ七人ノ裁判官ヲ要セズシテ五人デモ出來ルデハナイダラウカト云フヤウナ大略ノ質問ガアリマシタ、又其一ハ此改正案ニ據リマシテ人員ヲ減ジテ、減ジタ判事ヲ以テ更ニ新ニ部ヲ設ケテヤル以上ハデヤ、更ニ人員ヲ増スコトハ無イカ、又新ニ民刑ノ部ヲ設ケル以上ニハ經費ノ點ハ如何デアアルヤト云フ大略ノ質問デアリマシタ、政府委員ノ答ハ詳細ナル答ガアリマシテゴザイマスケレドモ、右ノ初メノ質問ニ付キマシテハ、政府ノ述べラレタ意見ト重ナルヤウナコトデアリマスカラ敢テ御報告ヲ致ス必要モ無イヤウニ思ヒマス、其中必要ト思ヒマシタ

分ハ、畢竟我國ノ裁判官ノ裁判ハ必シモ正確ナルヲ得テ、其技倆モ、國民ニモ外國人ニモ十分信用ヲ得ルマデニ進歩シテ居ルヤ、果シテ進歩シテ居ッテ人ヲ減ジテモ相當ナリトスルコトガ出來ルヤ否ヤ、歐米國ノ事例ヲ引クト云フ譯デモナイケレドモ、英國其他一等國ノ制度ニ於テモ、何レモ大審院ハ七人、控訴院ハ五人ト云フコトニナッテ居ル、諾威トカ丁抹トカ云フ小サイ國ニ於テハ大審院ニ五人、控訴院ニ三人ト云フ國ハ澤山アルケレドモ、凡ソ一等國ト云フ唯今ノ國ニ於テハ露國ヲ除イタ外ハ何方デモ矢張り大審院ハ七人、控訴院ハ五人ト云フコトニ制度ガ定マッテ居ルヤウナモノデアアルガ、日本ノ裁判官ガ他ノ國ヨリモ今日ハ進歩シタト見テモ、果シテ七人ヲ五人ニ減ジ、五人ヲ三人ニ減ジテ相當ナル裁判ガ出來テ、一等國ノ立派ナ裁判官ト同等ノコトガ出來ルヤ否ヤ、甚ダ其邊ノ關係ニ於テハ斷言スルコトガ出來ヌト、斯ウ云フコトデアリマシタ、又其今ノ質問ノ一ツノ此經費ノコトニ付イテハ此改正案通りニシマスレバ大審院控訴院ヲ通ジテ判事二十七人ガ減ズル、増ス方ニ於テハ大審院ハ二部ニシテ民刑事各、一部ヲ置キ、控訴院ニ於テハ十六部ヲ増サナケレバナラス、サウシテ人員ノ増シ方ハ大審院ニ於テ部長二人、檢事一人何レモ勅任デアアル、ソレカラ書記ハ四人ノ増シ方ニナラネバナラス、控訴院デハ部長十六人、檢事六人、書記三十人ノ増員ニナルト、是ハ二十七人ヲ減ズル、判事ト差引キシテ見ルト云フト、勅任檢事、判事ノ所デ二人増員ノ計算ニナルノデアルト云フ、斯ウ云フコトデアリマス、ソレカラソレニ伴フ經費ト云フモノハ五万八千三百三十七圓、是ハ通常費デアリマス、判事檢事書記ノ俸給、並ニ廳中諸費、修繕費、旅費ナドデアアル、ソレカラ七千二百七十八圓ガ初年度ノ設備費デ、是ハ増設法廷、或ハ合議室、或ハ事務室ナドノ器具備付ノ費用デアアル、ソレカラ臨時歲出ノ方デハ九万六千八百七十三圓、是ハ部ヲ増セバ訟廷モ増サナケレバナラス、事務室モ合議室モ増サナケレバナラヌト云フ計算デアアル、ソレデ經常臨時合セテ十六万二千四百八十八圓バカリ増スト云フ答辯デアリマシタ、此他委員ノ中デ一ノ質問ガアリマシタケレドモ、長ウナリマスシ格別必要デモゴザイマセヌカラ是ハ報告ヲ省キマス、デ一人ノ委員ノ方カラ御説ガアリマシタコトヲ申シマスガ、此法律案ハ現行法ノ制度ヨリモ幾分か宜シイト思フ、其趣旨ハ大審院ニ於テ七人ノ定數デアアルケレドモ時トシテハ五人デ裁判ヲシテモ宜シ、控訴院ニ於テハ五人ノ定數デアッテモ時トシテハ三人デ裁判スルコトモアリマス、

ソレハ事件ノ模様ニ依リ又ハ其部ノ都合ニ依ッテ自由ニシテモ宜シイト云フコトデア、何トナレバ今日ノ裁判官ハ往年ノ裁判官ヨリモ餘ホド面目ヲ改メテ進歩シテ居ルカラ人民ノ信用モ十分デア、ソレ故ニ裁判官ノ人員ノ多少ニ依ッテ人民ノ信、不信ガ變ラウトハ思ハヌ、又少シモ危險ガアルト思ハヌ、ト云フ大要ノ論旨デアリマシタガ、是ハ畢竟、原案ノ改正案ノ趣意トモ違ヒ、又根源モ違ヒマスカラ賛成者ハアリマセナシタ、ソコデ判決ハ一人ノ委員ヲ除イテ全會一致デ否決ト云フ判決デゴザイマシタ、其理由ハ現今ノ狀態ヲ見ルニ、即今構成法ニアル人員ヲ減ズル必要ヲ認メナイ、且ツ司法上最モ重大ナル裁判所構成法ノ規定ヲ是等ノ僅ナ一點ヲ以テ輕々ニ變更スベキモノデナイト云フコトデ、此案ハ或ル一人ヲ除外、全ク全會一致ト申シテモ宜イヤウナ譯デ、否決スベキモノト決シマシタ次第デアリマス、此段御報告申シマス、引續イテ日程第十二ノ矢張り裁判所構成法中改正法律案、是モ私ガ委員長デゴザイマシタカラ御報告ヲ申上ゲマス、是ハ前ノ事件デ申上ゲマシタ通り衆議院提出案デアリマスカラ理由書ガアリマセヌガ、政府委員カラ理由書ヲ受取リマシタカラ其理由書ヲ一應讀ミマス

訴訟ノ遷延ハ我カ司法界ノ通弊ニシテ爲ニ裁判ノ價值ヲ損スルコト尠カラス、然ルニ裁判所構成法ノ規定ニ因ル裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ及フヲ以テ其ノ間二箇月ノ久シキ裁判所ハ或ル少數ノ事件ヲ除ク外民事訴訟ノ審理ヲ中止シ且新ナル訴訟ニ著手セヌ是レ實ニ法律ヲ以テ訴訟ノ遷延ヲ助長スルモノト謂フヘシ從ツテ可及的右休暇日數ヲ短縮シ以テ訴訟ノ進行ヲ圖ルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

斯ウ云フ理由デアリマス、是亦甚ダ簡單ナ事件ノヤウデゴザイマスケレドモ、又法律上比較シテ見ルト、ナカ／＼重大ナ問題デゴザイマス、ソコデ政府委員ニ先ヅ説ヲ求メタノデゴザイマスガ、政府委員ノ意見モ休暇中ニ於ケル事件ノ進行ヲ停止又ハ禁止スルコトヲ法律ヲ以テ規定スルノハ是ハ或ハ失當ヤニモ認メル、休暇中ト雖モ時間ノ許ス限リハ總テノ事件ヲ取扱フニ於テ差支ナイト云フコトデアリマシタ、是ハ即チ民事訴訟法、裁判所構成法ノ法律デゴザイマスガ、條ハ申シマセヌケレドモ、而シテ斯ノ如ク論ズルトキニハ歸著スル所ハデヤ、休暇時期ノ長短ヲ定メルノデハナクシテ、其規定ヲ存スルヤ否ヤヲ決スルニアルト、是ハ如何ニモサウデアッテ此原案ハ六十日ヲ三十日ニ短縮スルト云フ案デアリマスガ、政府ノ意見デアッテ見レバ、到底寧

ロ是ハ全廢シテ其規則ヲ改メルナレバ格別ト云フ意見デアリマス、裁判所構成法ガ極メテ重大ナル法律デア、ルコトハ勿論デアリマスガ、此休暇制度ト云フモノハ二十餘年間行ッテ來タモノデアレバ重大ナル理由ノ無イ限リハ之ヲ存置スルガ宜イト云フ議論モアリマセウ、是亦一理由デア、假ニ若シ制度自體ノ得失ヲ斷定シ之ニ改正ヲ施サウト云フニ於テハ勢ヒ其根本ニ付イテ之ヲ解決スルコトヲ要スル、根本トハ即チ民事訴訟法、裁判所構成法ノ中ニアル休暇時間ニ關スル法律ヲ改正シヤウト云フノデゴザイマセウ、試ニ此法律案ノ如ク休暇ヲ半減スル如キ修正ハ、裁判所構成法ノ如キ重大ナル法律ニ對シテ修正スルノハ寧ロ修正セヌ方ガ宜イト信ズル、加之、休暇日數ヲ一箇月トシタラ裁判所ニ於テ僅ノ日數ノ爲ニ事務引繼ナドノ煩累ハ甚シイコトデアッテ意外ナ混雜ヲ來タスデアラウ、決シテ事務ノ進行ヲ速カニスルコトハアルマイ、固ヨリ此裁判所ノ法律ニ於テ休暇ト云フモノハ裁判所ノ休暇デアッテ、裁判官ノ休暇デナイ、裁判官ハ御思召ヲ以テ休暇ヲ賜ハルト云フ閣令ニ依ッテ休暇ヲスルノデ、是ハ行政官モ同様矢張り六十日間ノ内、差支ナイ限り休暇ヲ賜ハルノデア、ルカラ、假令此法律ガ改正ニナッテモ裁判官ノ休暇ニハ一向差支ナイノデアリマス、到底此案ニハ同意ガ出來ナイト云フコトデアリマス、ソコデ委員會ニ於キマシテハ段々、話ハゴザイマシタガ、至ッテソレハ長イコトデア、ルカラ結局ノ所ヲ申シマスガ、是ハ一二三ノ質問ガアリマシタケレドモ、必要ト見マセヌカラ申上ゲマセヌ、結局全會一致ヲ以テ否決イタシマシタ、其趣旨ハ大要、構成法第二百七條ノ休暇ハ裁判所ニ與ヘル休暇デアッテ裁判官ニ與ヘタ休暇デハナイ、裁判官ハ御思召ノ賜暇デ、即チ閣令ニ依ル所ノ休暇デア、ル、ソコデ此休暇期間ヲ半減ニスルノハ他ノ一般官吏ト異ナルコトデ、穩當デナイ、而シテ裁判所ノ休暇全廢ハ構成法ノ他ニ改正ヲ要スル事件ガアルヤニアルカラ、ソレト共ニ調査研究シテ時機ノ到來スル時節ニナレバ格別、今日此部分ノミノ改正ハ勿論不同意デア、ル、否決スルト云フコトニナリマシテゴザイマス、右御報告……

○議長(公爵徳川家達君) 委員長ノ報告ハ兩案東ネテゴザイマシタガ、今問題ニ供シマスノハ議事日程第十一ノ法案ト御承知ヲ請ヒマス
○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十一ノ法案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 無シ

○議長(公爵德川家達君) 起立者ハゴザイマセヌヲ以テ否決ト云フコトニ決シマシタ

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十二、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 無シ

○議長(公爵德川家達君) 是モ起立者ハゴザイマセヌカラ、否決セラレタモノト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十三、群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告

群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案
右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十日

右特別委員長

侯爵 花山院 親家

貴族院議長公爵德川家達殿

〔侯爵花山院親家君演壇ニ登ル〕

○侯爵花山院親家君 唯今議題ト相成リマシタ群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報道イタシマス、本月ノ十日ニ正副委員長ノ選舉ヲ行ヒマシテ、引續イテ開會ヲ致シマシタ、御承知ノ通り此案ハ衆議院提出ノ案デゴザイマシテ、群馬縣山田郡毛里田村外三箇村ヲ同縣ノ新田郡ノ區域ニ屬セシムルト云フ法案デアリマス、之ニ對シマシテ政府ノ意見ヲ承リマシタ所、此四箇村ヲ新田郡ニ移スト云フコトハ自治體ニ變更ヲ來タシ、事ガ重大デアリマシテ、當ニ一地方ノ利害休戚ヲ以テ決スル譯ニハ參リマセヌ、ソレ故ニ本案ノ衆議院ニ可決セラレマスヤ、政府ニ於キマシテハ慎重丁寧ナル調査ヲ致シマシタ所、此四箇村ヲ山田郡カラ分割シマシタナラバ、人口ニ於キマシテ凡ソ二万人ヲ減ゼラレマス、サウシテ直接國稅ニ於キマシテ凡ソ五萬圓ヲ低減セラル、譯デアリマス、ソレデ郡ノ獨立上、大ナル影響ヲ蒙ルノデアリマス、殊ニ山田郡ニアリマス、桐生町ハ現在人口ガ三萬以上モアリマシテ、段々繁昌ヲシテ來マシテ將來、市ニデモナリマスレバ、

山田郡ハ人口ガ減ジマスシ、資力ハ缺乏スルノ憂ガアリマシテ、郡ハ獨立ノ能力ヲ缺クト云フニ至リマスルト云フコトニモナリマス、ソレデ多數ノ郡民ノ意向ハ反對ニ左祖スル如キ有様デアリマス、ソレ故ニ政府ハ今直チニ本案ニ同意ハ仕兼ネルト云フ答デゴザイマシタ、結局、委員會ニ於キマシテハ政府ヨリ述ベラレマシタヤウニ他、桐生町ニ市制デモ施カル、コトニナッタナラバ一郡ノ獨立ト云フコトハ、ムヅカシクナルバカリデナク、今日、本件ノ如キ民意ノ統一シテ居リマセヌ場合ニ際シマシテ變更ヲナスニ至ッタナラバ、多少ノ紛議ヲ生ズルデアラウ、故ニ將來ニ於テ考慮ヲ連ラシマシテ機運ノ熟スルヤウニ至ルマデ延期ヲ致シマシテモ差支ナイデアラウト云フ點ヲ以チマシテ全會一致ヲ以テ否決ニナリマシタ次第デゴザイマス、此段御報告ヲ申上ゲマス

○議長(公爵德川家達君) 採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 無シ

○議長(公爵德川家達君) 起立者ハ一人モ無イト認メマス、故ニ本案ハ否決セラレマシタ

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十四、未成年者飲酒取締ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告

未成年者飲酒取締ニ關スル法律案
右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十三年三月十一日

右特別委員長

伯爵 德川 達孝

貴族院議長公爵德川家達殿

未成年者飲酒取締ニ關スル法律案特別委員會ノ報告ニ對スル少數者意見

右貴族院規則第五十條及第四十二條ニ依リ提出候也

明治四十三年三月十一日

右特別委員

貴族院議長公爵德川家達殿

伯爵 德川 達孝
男爵 辻 新次
大澤 謙二

未成年者飲酒取締ニ關スル法律案特別委員會ノ報告ニ對スル少數者意見

本案ハ可決スヘキモノナリト認ム

〔伯爵德川達孝君演壇ニ登ル〕

○伯爵德川達孝君 唯今議題ニ上ボリマシタ所ノ未成年者飲酒取締ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報道イタシマス、此委員會ハ兩日ホド開キマシテ慎重ニ審議イタシマシタ、此案ハ此所テ私が申スマデモ無ク衆議院ノ提出案デゴザイマシテ、年々歳々出マスル所デ、先年ハ未成年ノ飲酒ヲ禁止スルト云フ所ノ案デゴザイマシタガ、本年ハ變リマシテ、未成年者ノ飲酒ニ關スル取締ト云フコトデアリマス、勿論未成年者ガ酒ヲ飲ンデハナラヌト云フ趣意ハ變リマセヌガ、唯其取締方ガ違ヒマス、前ニハ御承知ノ通り未成年者ヲ監督スル所ノ親權者若クハ親權者ニ代ッテ監督スル者ヲ處罰シ、又酒ヲ販賣スル者ヲ處罰スルト云フコトデゴザイマシタガ、此度ノハ變リマシテ營業上、酒類ヲ販賣スル所ノ者、即チ酒屋ハ申スマデモナク、料理店、或ハ旅館、其他營業上、酒類ヲ販賣スル所ノ者ニ於テ、未成年者ガ酒ヲ買ヒニ參リ、ソコデ飲ムトカ云フトキニ、其營業者ヲ處罰スルト云フダゲニナツテ居ル、ソレデ範圍ハ狭クナツタ、サウ云フ譯デゴザイマス、サテ委員會ニ於キマシテハ政府委員ニ向ッテ政府ノ意向ハ如何デアルカ、尋ネマシタ所ガ、前年ノ案デハ餘ホド取締ガ困難デアル、ソレハ即チ家庭マデ立入ッテ親權者ガ酒ヲ飲マシテ居ルカ否ヤヲ見ナケレバナラヌカラ餘ホド困難デアル、併シ此度ノ案ハ酒類ヲ販賣スル營業者ヲ處罰スルノデアルカラ前ノニ比ベテ見レバ大ニ取締ガ致シ易イ、本案ニ同意スル、斯ウ云フ譯デアリマス、種々質問モ出マシタガ、委シイコトハ速記録ニゴザイマスカラ、ソレデ御承知ヲ願ヒマスルガ、質問ノ大要ヲ申セバ、斯ノ如キ法律案ガ施行サレタ曉ニ十分ナ取締ガ出來ルカ、ドウカ、今政府委員ハ取締ガ付クト言ハレテアルガ、ドウモ取締ガ不可能デアルト云フヤウナ點ニ付イテ、種々質問モゴザイマシタ、又前年ノ禁煙ノ法案ニ付イテ比較ノ質問モ

ゴザイマシタ、大要ハ詰リ實行ガ出來ルカ否ヤト云フ所ガ大眼目デ、其他ノ質問ハ是ハ速記録デ御存ジデアラウト思ヒマスカラ略シテ置キマス、サテ討論ニ移リマシテ、賛成反對交、論ガ出マシタ、是ヨリ賛否兩論者ノ意見ノ大要ヲ申述ベヤウト存ジマス、本案ニ對スル否決論者、即チ反對論者ハ斯ノ如キ未成年ノ酒ヲ飲マセルト云フヤウナ取締ノコトハ法律上デ規定スベキモノデハナイ、教育上道德上ニ於テ、家庭ニ於テ十分ニ監督シ、又學校ハ學校ノ校長、其他ニ於テスベキモノデアアル、若シ斯ノ如キ法律案ガ施行サレタ曉ニ取締ガ十分ニ出來ズ、其取締ガ十分ニ出來ヌケレバ、是ハ空文ニナツテ來ル、一ノ空文ニナレバ國民ト云フモノハ法律ト云フモノヲ輕シイモノデアルト見テ、何時モ法律ト云フモノハ實行スベキモノデアアルノニ、十分ニヤラヌヤウナ法律ナラバ法律ヲ出ス必要ハ無イ、詰リ法律ヲ輕ンズルコトニナリハセヌカ、今日未成年者ガ酒ヲ飲ンデナラヌト云フコトハ、是ハモウ誰モ知ッテ居ルコトデ、斯ノ如キ規定ハ法律ヲ以テスベキコトデナイ、斯ウ云フ簡單明瞭ナ意味ヲ以テ反對サレタ譯デアリマス、賛成者ハ曰ク、成ルホド斯ノ如キモノハ法律ヲ以テ規定スベキモノデナイ、併ナガラ前ノ案ト違ッテ今度ハ營業者ヲ取締ルモノデアアルカラ、政府委員ノ言フ如ク大分取締ガ付キ易イ、勿論學校ナニカニ於テハ校長其他、文部省アタリデ訓令ヲ出スコトモアリマセウ、學生ニ對シテハ假令此法律案ガ出ナクテモ他ニ取締ノ途ガアル、併ナガラ未成年者ハ單リ學生ノミナラズ、學生以外ニ於テモ未成年者ハ澤山アル、殊ニ不良少年ナドガ澤山アル、又學生ニ籍ハ置クト雖モ其實、學生デナイモノモアル、サウ云フモノヲ取締ルニハ學校ノ訓令ヤ學校ノ規則デハ逆モ出來ナイ、又家庭ニ於テ父兄ノ監督ヲ受ケテ居ル者ニハ父兄ニ責任ガアル、ケレドモ地方カラ都會ヘ出テ居ル者ハ、寄宿舍ニ這入ルト云フ者ハ家庭ノ監督者ガ無イ、サウ云フヤウナ者ハ假令學生デアルト否トニ拘ラズ、矢張り自然ト酒樓ニ登ルヤウナコトニナル、ドウシテモ此法律ガ出來ナケレバナラヌ、サウスレバ國民ヲシテ酒ヲ飲ンデハナラヌ、酒ヲ飲ミニ行クナトカ、酒樓ニ行ッテ酒ヲ飲メバ斯ウ云フコトガアル、殊ニ未成年者ハ酒ヲ飲ンデハナラヌ、又未成年者ソレ自身ニ酒ヲ飲ンデハナラヌト云フ印象ヲ與ヘルカラ、少シハ厲行ハ出來ナイコトガアルニシテモ、斯ノ如キ法律ハ施行サレタ方ガ宜イ、斯ウ云フ意味ヲ以テ賛成シタノデアリマス、サテ採決イタシマシタ所ガ二名ニ對スル四名ノ多數ヲ以テ本案ハ否決スベキモノトナツタ次第デゴザイマス、又委員會ニ於

キマシテ賛成論者ノ少數意見が出マシタ、其少數意見ハ本員ガ玆デ申スヨリ
モ少數意見ノ御方カラ報告ヲ此壇ニ於テ爲サレマセウカラ、先ヅ御報告申上
ゲルコトハ大體右様ナコトデアル、左様御了承ヲドウゾ……

○大澤謙二君 少數意見ヲ……

○議長(公爵徳川家達君) 御登壇ヲ願ヒマス

〔大澤謙二君演壇ニ登ル〕

○大澤謙二君 是ヨリ少數者ノ意見ヲ申上ゲタイト思ヒマス、付キマシテハ
酒ノ作用、即チ酒精ノ身體ニ及ボシマスル作用ニ付キマシテ單簡ニチヨット
申上ゲタイト存ジマス、是ハ二タ通りゴザイマシテ、醫學ニ於キマシテハ急
性中毒、慢性中毒ト分チマス、即チ此急性中毒ト申シマスノハ酔ヒマシタ有
様、酩酊状態デアリマシテ、輕度ニアリマシタトキニハ精神ガ少シク發揚ヲ
致シ舉動ガ活潑ニナルクラキナコトデゴザイマスルガ、中等度ニナリマスル
ト云フト、思慮ノ敏捷ヲ缺キ、注意ハ周到ナラズ、理解力ハ滯滯シ、記憶力
ハ減退イタシマシテ、從ッテ深考スルコトが出来ナクナリマス、自負尊大ニ
ナリマシテ無暗ニ人ヲ罵詈訾弄ヲ致ス者ナドが出来テ參リマス、高度ノ中毒
ニナリマスト高尚ナル情緒ハ攪亂サレ、美的及道德的觀念ハ次第ニ消失イタ
シ、自守自制ノ心ハ益々、侵害イタサレマシテ、其舉動ハ破廉恥トナリ、其行爲
ハ躁暴トナル、斯様ニ致シマシテ遂ニハ諸種ノ罪惡ヲ作ルニ至ルノデゴザイ
マス、即チ誹毀罪、侮辱罪、風俗ヲ害スル罪、猥褻罪、往來通信妨害罪、家
宅侵入罪、安寧妨害罪、虐待罪、毆打罪、創傷罪、甚シキニナリマスルト殺
人罪ヲモ犯スニ至ルノデアリマス、是等ノコトハ日々、新聞ニ現ハレマスル三
面記事ニ少シク御注意ニナリマスレバ、毎日出逢フコトが出来ルノデアリマ
ス、ソレカラ鐵道ノ事故ナドモ多クハ酒ノ爲デアリマシテ、殊ニ寒濕ノ氣候
ナドニナリマスルト、之ヲ防ガムガ爲ニ酒ノ度ヲ過ゴシ、遂ニ「ポイントメン」
其外、乗車員ナドノ不注意ノ爲ニ起ルノガ多イデゴザイマス、又工場ニ於キ
マスル災害遭難ナドモ、多クハ酒精ノ爲ニ起ルノデアリマシテ、工場ナドデ
一週間ノ中、イツガ一番災害ガ多イカト調べテ見マスルト、日曜ハ休ム、月
曜ガ一番多ウゴザイマス、是ハ全ク前日、日曜ニ酒ヲ過ゴシマシタル所ノ
影響デゴザイマス、ソレカラ或ル所ノ鑛山ナド調べテ見マスルト、却ッテ
火曜日ノ方ガ多イト云フコトヲ發見イタシマシテ、ドウ云フ譯デアラウカト
云ウテ段々調べテ見マスルト、日曜ノ飲ミ過ゴシガ月曜ニ及ンデ、宿醉ノ爲

ニ餘リ出テ來ナイ、故ニ火曜日ガ一番多イト云フヤウナコトヲ發見シタコト
デゴザイマス、此酩酊ノ最高度ニ達シマスルト、謂ハユル泥酔ニナリマス、
精神ハ溷濁イタシマシテ、事物ノ正當ナル判斷モ出來ズ、甚シクナリマスル
ト昏睡イタシマシテ、全ク死ンデ仕舞フノガアリマス、是ハ急性中毒ノ状態
デアリマスルガ、慢性中毒ト申シマス、是ハ餘リ皆様御承知ノ方ハ少ナカラ
ウカト思ヒマスルガ、ザット申シマスルト、鼻デアルトカ、咽喉デアルトカ、
胃デアルトカ、腸デアルトカ云フヤウナ加答兒ヲ起シマス、ソレカラシテ肝
臟ハ初メハ膨上ガリ、後ニハ萎縮スル、脈管ハ軟化開張イタシマシテ、心臟
ハ肥大シマシテ、後ニハ脂肪變質ト云フコトニ陥リマシテ、脈管モ心臟モ破
裂シ易クナリマス、彼ノ腦溢血ト申シマシテ、通常卒中デゴザイマスナ、是
ガ酒ヲ飲ム人ニ多イト云フコトハ、或ハ御承知デアラウト存ジマス、其外腎
臟ハ炎症ヲ發シ、變質ヲ致シ、呼吸器モ亦加答兒ヲ發シマシテ、之ガ爲ニハ
段々弱ルモノト見エマシテ、肺結核ニ罹リマス者ガ、酒ヲ過ゴス者ニ多イト
云フコトハ、爭フベカラザル事實デゴザイマス、ソレカラ神經系統ニ於キマ
シテハ、初メハ搖蕩振顫ナド、云フクラキニ止マリマスガ、段々進ミマス、
知覺運動麻痺ヲ來タス、ソレカラ幻覺躁狂、ソレカラ自殺欲ノ増進、ソレカ
ラ甚シクナリマス、馬鹿ニナリマス、就中、酒客譫妄ト醫學ノ方デ申シマス
氣チガヒデゴザイマス、是ハ隨分多イモノデアリマシテ、巢鴨病院……彼ノ
狂人ヲ容レマス病院ノ、百人ノ中三十三人餘、即チ三十三「パーセント」餘、先
ヅ三分一餘ト云フモノハ、酒ノ爲ニ起リマスル氣チガヒデゴザイマス、其外
五官モ段々衰ヘテ參リマシテ、視、聽、嗅、味、就中、目ガ害ヲ被ムルノデ
ゴザイマス、斯様ナ譯柄デ、身體ガ弱クナリマスル、病ニ罹リ易クナリマス
ルシ、又罹リマシタ以上ハ、容易ニ癒リマセヌ、就中、傳染病ニ罹リ易クナ
リマシテ、免疫性ト申シテハ御分リニクウゴザイマセウガ病氣ニ罹ラヌト云
フ質ガアル、或ハ此性質ヲ拵ヘルコトモ出來マス、豫防注射ナド、申シマシ
テ、病氣ニ罹ラナイヤウニ致スコトモ出來ルノデゴザイマス、トコロガ酒ヲ
飲マセマスルト免疫性ガ減ジテ參リマス、或ハ天然ニ免疫性ヲ有ッテ居リマ
スル動物、或ル種類ノ傳染病ニハ少シモ罹ラヌト云フ性質ノ動物デモ、酒ヲ飲
マセマスルト遂ニハ免疫性ガ消滅イタシマシテ病ニ罹ルヤウニナリマス、ソレ
カラシテ壽命ガ短縮イタシマス、例ヘバ滿二十五歳ニ達シタ者ハ、此先キ何
年生キルト云フヤウナ、キマリガゴザイマス、英人ナドハ滿二十五歳ニ達シマ

スルト、此先キ三十六年ホド、マダ餘命ガ有ル筈デアル、平均イタシテ三十
六年、然ルニ酒ヲ飲ミマスル者ハ三十二年デ死スル、即チ六年ホド命ガ短縮イ
タシマス、斯様ナ統計ハ普魯西ニモゴザイマス、就中、獨逸ノ「ミュンヘン」ト
申シマスルノ「ビール」ノ名所デゴザイマシテ此人民ハ非常ニ澤山ニ酒ヲ飲
ミ、其酒屋ノ亭主ナド、云フヤウナ、毎日酒ニ接シマスル者ハ、普通ノ人ノ壽
命ヨリモ半分シカ無イ、半分シカ生存シナイト云フ、實ニ恐ロシイモノデゴ
ザイマス、是ハ酒精ガ人體ニ及ボシマスル影響デゴザイマス、一家ニ及ボ
ス害ヲチョット述ベテ見マセウナラバ、家庭ハ不和トナリ、家政ハ紊亂イタ
シマスル、御承知ノ通りニ、下等ノ人民ニナリマス、稼ギ高ノ半分ハ先ヅ
稼ギ人ガ飲ンデ仕舞ッテ、残りノ半分ヲバ妻子ノ衣食ニ充テルト云フヤウナ
状態デアリマスカラ、不和ニナリマスルノモ尤モデアリマス、又之ガ爲ニ段
々家政ガ紊亂イタシ、貧乏ニ陥リマス、初メハ先ヅ晩ニ酒ヲ飲ムクラキナコ
トデアリマスガ、段々慢性ノ中毒ニ陥リマス、朝カラ少シヤラヌト仕事ガ
出来ヌト云フヤウナ状態ニ陥リマス、ソレカラ今少シ進ミマス、酒ヲ飲ン
デモ仕事ガ出来ナクナル、サウナルト云フト賃銀即チ收入ガ少ナクナッテ參
リマス、妻子カラハ苦情ガ出テ來ル、ソレカラドウモ面白クナイト云フ譯
デ、外ヘ出テ憂ノ玉箒ヲ用ウルト云フコトニナリマシテ、トノ詰リハ一家
離散イタシマシテ、公ケノ救助ヲ仰グヤウニナリマスルノデ、是ガ先ヅ一家
ニ及ボス害デゴザイマス、次ニハ子孫ニ及ボシマスル害ヲバ申シマセウナラ
バ、是ハ諸君ハ餘リ御承知ハ無イカト存ジマスルガ、子供ノ生レ方ガ少ナク
ナル、先ヅ酒ヲ飲マナイ夫婦ノ間ニ、四人一分ノ子供ガ出來ルト致シマスル
ト、夫婦ノ一方ガ酒ヲ用キマスルトキニハ、其間ニハ一人三分シカ子供ガ出來
ナイ、夫婦トモ酒ヲ飲ムト一人シカ出來マセヌ、是ハ飲酒家即チ酒ヲ飲ミマ
スル家族二十一……二十一家族ヲ調べマシタ所ガ、十家族ハ全ク子ガゴザイ
マセヌ、十一家族ニハ二十四人ノ子ガアリマス、即チ一家平均二人デアリマ
ス、今ノ二十一家族ニ割當テマスルト他ニハ四人……當リ前ナラ四人餘モ子
ヲ生ムノニ唯一人シカ出來ナイト云フ譯デゴザイマス、第二ノ害ハ早世ヲ致
シマス、早死ニヲ致シマス、是ハ酒ヲ飲マナイ者ノ子ガ二年目ニ死シマスル
數ハ百人ニ付キマシテ二十四人デアリマスルガ、酒飲ミノ子供ハ五十人死シ
マス、即チ酒ヲ飲マヌ者ヨリモ丁度倍ホド死シマスルノデゴザイマス、第三
ニハ子孫ガ悪性トナリマス、不良少年ナド、云フモノハ酒飲ミノ子ニ多ウゴ

ザイマス、癲癇持、精神病者、ソレカラ白痴、種々ナ犯罪人ナドゴザイマ
ス、是ガ酒飲ミノ子ニ出來マス悪性ノ遺傳デゴザイマス、而シテ酒ヲ飲ミマ
スル者ガ四代モ續キマスルト遂ニ子供ハ一人モ出來ナクナルノデゴザイマ
ス、ソレカラ酒飲ミノ女ノ子ニハ……酒飲ミノ娘、是ハ乳ノ出ガ惡ルイ、惡
ルイドコロデナイ全ク出ナイト云フノモ事實ト思ハレマス、是ガ子孫ニ及ボ
シマスル惡影響デゴザイマスルガ、國家ニ及ボシマスル影響ヲ申シマセウナ
ラバ、第一ハ人民ガ病弱トナル爲ニ生産力ガ減却イタシマス、第二ハ人口
ハ減少シ、人種ハ變質イタシマシテ劣等トナリマス、第三ハ家政ハ紊亂シ、
風俗ハ壞亂イタシマスルシ、第四ハ自殺ヲ促シ、犯罪ヲ催進イタシマス、
此自殺ノコトニ付イテチョット申シマス、諾威ハ大變ニ此禁酒運動ガ盛ンデ
ゴザイマシテ、追々酒ヲ飲ム者ガ少ナクナッテ參リマシタノデゴザイマスガ、
此多ク飲ミマシタキト、ソレカラ少ナクナッテ比ベテ見マスルト、
非常ニ段々自殺イタシマスル者ノ數ガ少ナクナッテ來タコトガ現レマシテゴ
ザイマス、是ガ酒ヲ飲ムコトノ減ッタノミノ爲ニ自殺者ガ少ナクナッテ來タ
カ、或ハ其他ノ經濟狀態ノ良クナッテ來タコトガ與ッテ力アルコトデアラウ
カ、其邊ノコトハ確ト申上ゲ兼ネマスルノデゴザイマスルガ、兎ニ角、飲酒
ノ量ガ減ズルト共ニ自殺者ノ少ナクナッテ參リマシタコトハ事實デゴ
ザイマス、ソレカラ第五ハ病院、貧院、孤兒院、癲狂院、監獄ナドヲ繁昌
ナラシメテ國家ノ費途ヲ増スト云フノガ今一ツノ害、第六ハ稅源ヲ減少イ
タシマス、御承知ノ通りニ毎年造リマス酒ノ分量ハ先ヅ四百萬石以上デゴザ
イマス、此稅ハザット七千萬圓ト申シマスルト、大分大ナル稅源デアルヤウ
ニ思ハレマスケレドモ、此酒ヲバ一石七十圓ト致シマスルト云フト、之ガ爲
ニ人民ガ失ヒマスル金ハ約三億圓ニ當リマス、ソレデアリマスカラ若シ此酒
ヲ飲マスデモ宜イト云フコトニナリマスルト云フト、成ルホド一方ニハ七千
萬圓ノ稅ガ減リマスルケレドモ、三億圓ノ中、七千萬圓ヲ引キマシタル二億
三千萬圓ト云フモノハ先ヅ浮イテ參ルヤウナ譯デゴザイマスカラシテ、酒ニ
ハ米モ要ル、殆ド三百万石ノ米ガ要ル、此米ノ代價ト云フモノモ少ナカラザ
ルモノデアリマスル故ニ、是等ノ浮イテ參リマシタル金ヲバ其方ニ向ケ
マシタナラバ、是ガ爲ニ事業ハドノクラキ起ラウカ、又其爲ニ營業稅ガ増シ
テ來ルトカ、或ハ所得稅ガ増シテ來ルトカ云フヤウナモノハ、随分大ナルコ
トデアリマシテ、決シテ此七千萬圓ノ稅ガ減ジタルドロコデハナイ、其數倍

ノ稅源ガ増シテ來ルデアラウト存ジマス、故ニ酒ノ爲ニハ稅源ガ減ズルト申シマシテモ決シテ誇大ノ言デハ無カラウト存ジマスルノデアリマス、其他ニ消極的ノ利益、即チ病氣災害ノ爲ニ生産力ノ減ジタノガ、ソレガ無クナル、或ハ犯罪人、或ハ不具癡疾者ノ保護ナドノ爲ニ費エル所ノ費用モ浮イテ參リマスルシ、又體質ガ佳良トナリマシテ能ク働ケルヤウニナリ、壽命ガ長クナツテ働ク時間ガ伸ビテ來ル、是等ノ利益ヲバ一總ニ勘定ラ致シマシタナラバ、ドノクラキナモノデアラウカ、實ニ大ナル利益デアラウト存ジマス、ソレカラシテ、マダ國家ニ及ボシマスル害ヲ申シマスレバ、殖民ニ不適當ニナルトカ、或ハ國防力ヲ減殺スルトカ云フコトモゴザイマスルガ、最早時刻モ進ンデ參リマシテゴザイマスルカラ長クハ申述ベマセヌガ、唯一言申上ゲテ置キタイノハ、瑞西ノ學者ニ「ホーレル」ト云フ人ガゴザイマス、此人ガ日露戰爭ノ結果ヲバ評シマシテ、アレハ下戸ノ日本ガ上戸ノ露西亞ニ勝ッタノデアルト申シテ居リマス、實ハ露西亞ノ人ガドノクラキニ酒ヲ用キマスルカ、ソレハ確ト分リマセヌ、先年私ハ獨逸ノ人ト日本ノ人ト飲ミ方ヲ比較イタシタコトガゴザイマス、獨逸ノ人ハ「アルコール」此酒精ヲバ一箇年一人ニ付キ平均八・三三「リットル」……「リットル」ト云フノハ五合五勺餘デゴザイマス、ソレホド用キテ居リマス、ソレカラ日本ノ人ハ今ノ清酒、濁酒、白酒、味淋、イロノナモノ、焼酎、皆合シマシテ計算ラ致シマシタノガ一人一年ニ二・四「リットル」約一升三合三勺ノ酒精ヲ用キマス、シテ見マスルト云フト獨逸人ノ用キマスル酒精高ノ四分一トハ參リマセヌガ、先ヅ四分一弱デゴザイマス、餘ホド我々ハ酒ヲ用キマスル量ガ少ナイノデゴザイマシテ、唯今申シマシタル「ホーレル」ノ言葉ナド、云フモノハ或ハ當ッテ居ルカモ知レマセヌ、又昨年「ブダベスト」ニ於キマシテ萬國醫學會ノ開カレマシタル節ニ維也納ノ大學教授「タルーベル」ト云フ人ガ申シマシタコトガゴザイマス、題ハ衛生淘汰及遺傳ト云フ題デゴザイマシテ、其末段ニ斯様ナコトヲ申シテ居リマス、段々開化ガ進ンデ參リ、サウシテ國ガ富ンデ來ル、サウスルト人民ハ放逸怠惰ニ流レテ風俗ハ廢頹スル、體質ハ惡變シテ人口ハ次第ニ減少シテ來ル、遂ニハ文明ノ民ガ比較的野蠻ノ人民ノ爲ニ滅ボサレルト云フヤウナ狀態ニ陷ルノデアアル、斯ノ如キ例ハ歴史ニアリトト見エル、即チ希臘ノ亡ビタノモ、昔羅馬ノ亡ビタノモ、皆ソレガ爲デアアル、若シモ今日ノ如クニ、酒ナドヲ飲ムト云フ惡習慣ヲ持續シテ居ッタナラバ、歐洲ノ人民ハ終ニハ他ノ者ノ爲ニ滅

ボサレルコトガアルカモ知レヌ、然ラバ何レノ方面カラ斯ノ如キモノガ現レルデアラウ、或ハ黃人種デアラウト思フ、此人種ハ隨分古イケレドモ、マダノ身體ノ中ニ發達スベキ精力ヲ蓄ヘテ居ル、必ズ油斷ラシテハナラヌ、併ナガラ此黃人種ト雖モ、若シモ歐洲風ノ開化ノ中毒ヲ豫防シナカッタナラバ、或ハ恐レルニ足ラヌカモ知レヌ、斯ウ云フ工合ニ申シテ居リマス、即チ我々が酒ヲ飲ムコドガ少ナク、體質ガ佳良ト云フコトハ、隨分アチラノ人モ恐レテ注意ラ致シテ居リマスモノダト云フコトハ、之ニ依ッテモ現レテ居ルト存ジマス、然ルニ此酒ト申シマスモノハ打棄テ、置キマス……放置シテ置キマシテ、即チ人民ガ飲ムニ任カシテ置キ、禁酒ナド、云フ運動ガゴザイマセヌト、次第次第ニ分量ガ増シテ參リマスモノデ、佛蘭西ニ於キマシテハ千八百四十年ニハ一人アテニ二「リットル」半デアリマシタノガ、ソレガ九十五年ニハ二十「リットル」半ニナリ、英吉利デハ千八百五十年ニハ一人アテ七「リットル」デアッタノガ、九十五年ニハ九「リットル」ニナリ、白耳義ニ於キマシテハ千八百四十年ニハ九・八「リットル」デゴザイマシタノガ、九十五年ニハ十二・八「リットル」其他伊太利ナドニ於キマシテモ飲酒ノ度ガナカノ急激ニ進歩イタシマシテ、次第次第ニ酒ノ分量ガ多イ、是デハイカスト云フノデ段々此人民、竝ニ政府ニ於キマシテモ、禁酒ノコトニ注意ラ致シマシタ爲ニ、段々佛蘭西デモ、英吉利デモ、獨逸アタリデモ減ツテ參リマシテゴザイマス、モウ白耳義、和蘭、奧地利ナドハマダ増シツ、アルノデアリマス、ソレデ我ガ日本ニ於キマシテモ、成ルタケ此酒ヲ用キル量ガ進マヌヤウニ、成ルベク之ヲ減ズルト云フコトニ努メテ參リマスノハ、至極必要ナコトデ、今申シマシタル通り、個體ハ勿論、國家ニ非常ナル惡影響ヲ被ムルコトデアリマスカラ、如何ナル方法デモ少シデモ此酒ヲ用キルコトノ少ナクナルコトニ是非、力ヲ盡サナケレバナラスト存ジマスノデアリマス、ソレ故ニ我々少數者ハ此案ハドウカ通過サセタイト希望イタシマスノデアリマス、ソレニ付キマシテ、或ハ斯様ナ意見モアリマス、段々教育ハ進ンデ來ルシ、道德モ進歩イタヌヤウデアルケレドモ、併シ一方ニハ不良少年ノ數ガ少ナクナルヨリモ、或ハ殖エテ來ルカモ知レヌト云フヤウナ影響モ……景況モ見エルノデアアル、是等ノモノガ、ドウ云フコトヲスルカ、酒色ニ充テタル此財源ヲ……金ヲバ得ムガ爲ニ惡事ヲ働クト云フヤウナコトガ隨分少ナクナイノデアアル、ケレドモ若シモ是等ノ酒ヲ飲マナイヤウニ、成ルタケ飲ムコトノ少ナイヤウニシタナラバ不良

少年モ少ナクナルデアラウ、又反對者ハ此未成年者ノ取締ト云フコトハ是ハ親權ヲ行フ者、兩親ガシナケレバナラヌ、斯ウ言ハレルケレドモ、併シ未成年者、必シモ兩親ノ膝下ニ在ルト云フ譯デハナイ、目今ノ狀態ニ於テハ、此我ガ東京ノ如キ惡習慣ノ多イ所、誘惑ノ多イ地ニ參ッテ居ル所ノ少年ハ少ナカラザルコトデアアル、即チ父母ノ監督ノ及バナイ所ノ少年モアルノデアアルシ、又學校……少年ガ悉ク學校ニ居ルト云フ譯デハナイ、成ルホド文部ニ於テモ教育ニ力ヲ盡サレルコトハ随分少ナクナイ、非常ニ誠メラレル所デアアルケレドモ、併シ未成年者ノ中ニハ學校ニ入ラナイ者モ少ナクナイノデアアルカラシテ、是等ノ案ヲ以テ取締……此案ヲ以テ取締ルト云フコトハ至極必要デアラウト云フ意見デアリマス、尙又一ノ意見ト申シマスルノハ、一體、酒ヲ飲ムヤウニナルノハイッデアルト云フト、マダ精神ノ十分ニ固マラナイ、今ノ未成年者、此時ニ多イノデアアル、大人ガ煙草ヲ喫ンデ居ル、一ツ眞似テ見タイ、酒ヲ飲ンデ居ル、御愉快ニ見ユル、オレモチョットヤッテ見タイ、斯ウ云フ所カラシテ、始メテ之ヲヤッタ、トコロガ煙草ヲ喫ンデモ始メテ喫ンダトキニハ決シテ心持ノ善イモノデナイ、目ガ回ルヤウニナル、酒デモ決シテオイシイモノデハナイノデアリマス、ソレニ馴レナイ女子ナドデアリマスト云フト、ツヒ先達テサウ云フ事ガアッタサウデゴザイマス、タッタ一杯ノ白酒ヲ飲ミマシタルガ爲ニ、吐キマシタリ、痢シマシタリ致シマシテ、懲リ懲リシタト云フコトデアリマス、懲リ懲リ致スノハ宜シウゴザイマスガ、サテ變ナ味デアアルワイ、モウ一度ヤッテ見ヤウカト云フヤウナコトデ、度々繰返シマスル中ニ、終ニハ此惡癖ニ馴レテ參リマシテ、サウシテ最早成年ニナリマシテハ煙草ノ害、酒ノ害ヲ覺リマシテモ、モウ廢メルコトハ困難ニナル、廢メタイガ廢メ難イ、ソレデイロ……失策ナドヲシテ、ソコデ神様ニ誓ヒ、又禁酒イタシマシタ者デモ、往々又裏返ッテ飲ムヤウナコトニモナル、ナカ……一旦此ノ酒ノ味ヒヲ覺エマスルト、ナカ……廢メ難イモノデアリマス、斯ク申ス本員ナドモ酒モ煙草モ非常ニ好キデアリマシタノヲ、已ムヲ得ズ斷念イタシタノデゴザイマスケレドモ、ナカ……ソノ其苦シイモノデアリマス、若シ人ノ前デ酒ヤ煙草ノ惡ル口ヲ言フ必要ガ無カッタラバ依然トシテ續ケテ居ッタカモ知レナイ、ナカ……難儀ナモノデアリマス、ソレ故ニ假令害惡ヲ知ッテモ廢メ難イモノデアル故ニ、此酒ノ害惡ニ感染シナイヤウニスルニハ、今ノ少年ノ時ニ……未成年ノ時ニ、之ニ染マナイヤウニシテ、最

早大人トナレバ餘ホド時期ガ後レテ居リマス、サウ云フ者モ次第二少ナクナッテ來ルノデアアル、是デドウモ教育ハ十分ニ施シマシテモ、家デ親父ガ飲ンデ居ルト云フ譯デアリマシテハ、迎モ其教育ノ力ナド、云フモノデハ十分ニ行ハレルモノデハナイ、デアアルカラシテ、ドウカ飲ムコトハナラナイ、酒ヲ飲ムコトヲ少ナクスルト云フ案デアレバ通過サセタイモノデス、親父ガ酒ヲ飲ミツ、モ、最早御上カラシテ斯ノ如キ禁令モ……取締ノ法律モ出タコトデアアルガ故ニ、オ前タチハ成年ニ達スルマデハ飲ムコトハ出來ヌゾヨト、斯ウ云フヤウナ工合ニ先ヅ法律ヲ楯ニ取ッテ又子供ニ言渡スコトモ出來ルト云フヤウナ譯デアアルカラシテ、此案ト云フモノハ未成年者ニ酒ヲ禁ジテ仕舞フト云フヤウナ有力ナモノデハナイデアアラウナレドモ、政府ニ於テハ十分取締ガ出來ルト云フ見込ノモノデアアル、又此案ハ必ズ幾分ノ效力ガアルト云フコトハ疑ヒノ無イモノデアアルガ故ニ、ドウカ是ハ通過サセタイ、若シモ本院ニ於テ此案ガ否決ニデモナラバ、反對ニ飲酒獎勵ト云フヤウナコトニナリハシナカラウカ、貴族院デモ、ナニ、ソナコトヲシナクテモト云フ譯デアアルカラ、ヤルベシヤルベシト云フヤウナコトニナッテハ大變デアルト云フヤウナ懸念モゴザイマス、ドウカ唯今申上ゲタ不調法ナ口調デ、且ツ時刻モ少ナイノデ急イデ申上ゲマシタ爲ニ私ノ申上ゲマシタ趣意ガ或ハ貫徹シ兼ネル所ガアッタカモ知レマセヌガ、大體御承諾クダサイマシタコトデアリマスナラバ、此案ノ通過イタシマスヤウニ御賛成ヲ願ヒタイト存ジマス

〔下條正雄君發言ノ許可ヲ求ム〕
○議長(公爵德川家達君) 下條君

〔子爵高野宗順君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 下條君ニ發言ヲ許シマシタ

○下條正雄君 唯今議題ニ上ボッテ居ル此案ノ賛否ヲ決スルニ少シク疑ヒヲ懷イテ居リマス、此際政府委員ニ質問ヲ致シタイト思ヒマスガ、宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス

○下條正雄君 唯今、大澤君カラ學術的其他經驗上ノコトニ付イテ數萬言、有害ナルコトヲ承リマシタ、如何ニモ害毒ノ激シイモノト思ヒマス、併ナガラ此害毒ノ激シイト云フ方カラ見マスルト、未成年、成年、總テ度ヲ過ゴシテハ宜シイコトデハナイト考ヘルノデアリマス、ソコデ大澤君カラ今ノ述べ

ラレタ御趣意ハ少シ禁酒ト云フ方ノ側ニ傾イテ居ルノデアリカ、或ハ取締ト云フ方ノ側ニ傾イテ居ルノカ、少シク要領ヲ得ラレヌノデアリマス、デ政府委員ニ此事ヲ質問シタイト思ヒマス、衆議院ノ提出ニナッタ此案ノ趣意ハ「酒類ヲ供給スル營業者ニシテ未成年者ニ酒類ヲ飲用セシメ又ハ其ノ自用ニ供スルコトヲ知リテ之ニ販賣若ハ給與シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス」斯ウ云フ案デアリマスガ、誠ニ成ルホド唯今大澤君ノ述べラレタ如ク有害ナルモノデアレバ未成年者等ニハ別シテ取締ハ付ケタイト云フ考ヘハ有ッテ居リマサルガ、サリナガラ實際此取締ト云フコトハ餘ホド困難ナコト、私ハ考ヘテ居ル、政府ニ於テハ此衆議院ノ提出案ニ基イテ此取締ガ出來得ルト云フ考ヘデアリマスルカ、如何デアリマスカ、例ヘバ集會又ハ宴會、總テサウ云フ席ニ臨ンデ未成年者ガ成年以上ノ者ト相混ジテ居ル、ソコデ酒ヲ飲ンダリスル場合ニ是ハドウ取締ガ付キマセウカ、例ヘバ酒店ニ上ッテ飲用スルト云フ時分ニ、未成年者一人デ上ガレバ成ルホド是ハ取締モ付キマセウケレドモ、多人數ノ中ニ未成年者ガ一人アッタト云フ時分ニハ、ドウ云フコトニシテ取締ガ付キマセウカ、又一個人トシテ自家ノ入用ノ酒ヲ買フト云フ時分ニ、男女ニ拘ラズ未成年者ノ雇人ハ之ヲ使ヘナイト云フコトニナリハセスカト思ヒマスガ、其邊ハ政府ニ於テ大抵御取締ガ付クト云フ御見込デゴザイマセウカ、如何デゴザイマセウカ、伺ヒマス

〔政府委員有松英義君演壇ニ登ル〕

○政府委員(有松英義君) 唯今此案ガ法律トナリマシタ後ニ果シテ取締ノ目的ヲ達シ得ルヤト云フ御尋ネノヤウニ心得マスガ、是マデ政府ニ於テ衆議院ノ提出案ニ反對イタシ來リマシタ案ハ、先刻モ委員長ヨリ御報告ニナリマシタル通り、家庭ニ立入ラナクテハ之ヲ檢舉スルコトガ出來ナイ等ノ理由ニ依リマシテ已ムヲ得ズ反對ヲ致シ來リマシタノデアリマスガ、今回衆議院ニ於テ修正ニナリマシタル即チ唯今議案トナッテ居リマス分ハ、酒類ヲ供給スル營業者ノミヲ取締ルノデアリマス、酒類ヲ供給スル營業者ハ大體ニ於テ平素、警察官ガ取締ヲ致シテ居ルノデアリマス、風俗其他ノ點ニ付キマシテ警察ハ常ニ注意ヲ致シテ居リマスル營業者デアリマスガ故ニ、其營業者ニ對シテ取締ヲ爲シ能ハズト申スコトハ言ヘマセス譯ニナッテ居リマス、固ヨリ如何ナル法律ト雖モ完全ニ遺漏ナク實行シテ參ルコトハ困難デアリマス、殊ニ斯ノ如キ此酒類ノ取締ノ如キコトハ格別施行上困難ハ感ジマスナレドモ、此法律

ガ幸ニシテ成立イタシマシタル上ハ平素、警察官ハ酒類供給ノ營業者ニ對シマシテ常ニ注意ヲ與ヘ、監督ヲ爲シ、成ルベク過チ無カラシムルコトニ致ス方針デゴザイマス、已ムヲ得ザル場合ニ於テ本法ニ依ッテ科料ニ處シ、多クハ説諭、注意ニ依ッテ取締ヲ致サウト考ヘマス、ソレデ十分ノ取締ハ出來ザルニ致シマシテモ、大體ニ於テ未成年者ニ飲酒セシムルコトノ不可ナルモノデアルト云フコトノ觀念ヲ一般ニ懷カシムルコトハ出來ヤウト思ヒマス、又營業者ニ對シマシテハ相當ナ取締ノ方法ハアラウト考ヘマスノデアリマス、將來未成年者ヲシテ酒ヲ買ヒニ酒屋ヘ還ルコトモ出來ナクナラウカト云フ御疑念モアリマスカナレドモ、自用ニ供スルコトヲ營業者ガ知リテ販賣給與シタル場合ニ初メテ處罰セラレルノデアリマスカラ、販賣者ガ使ニ參リマシタ未成年者ニ對シテ自用ニ供スル事實デアリカ無イカト云フコトヲ知リタルヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ處罰ノ際ニ立證イタサナケレバナリマセヌ、多クノ場合デハ此證明ガ困難デアラウト考ヘマス、故ニ子供ガ酒ヲ買ヒニ行クコトガ出來ナクナルト云フコトハ無イコト、考ヘマス、營業者ガ子供ガ自ラ飲ムノデアルト云フコトヲ承知シタ事實ガ立證サレテ初メテ罰セラレルノデアアル、又立證サレルクラキノ場合ハ營業者タル者ハ販賣イタサナイヤウニシナケレバナラスト思ヒマス

○男爵石黒忠惠君 序デニチヨット政府委員ニ御聞キシタウゴザイマス、唯今政府委員ノ御説明ノ中ニ、是等ノ營業者ニハ平生警察ノ注意ガアルモノデアルカラ、特ニ此事ニ注意ヲ致サヌデモ其序デニサレルカラ取締ガ付クヤウニ御辯明デゴザイマシタガ、料理屋トカ云フヤウナモノニハ取締ガゴザイマシタガ、酒屋ニモ平素、警察ノ注意ハ是マデアアルノデアリマスカ、是ハ念ノ爲ニ伺ッテ置キマス

〔政府委員有松英義君演壇ニ登ル〕

○政府委員(有松英義君) 酒類ヲ供給イタシマスル營業者中、其多數ハ平素、警察官ガ取締ッテ居リマス

○鎌田榮吉君 質問ガアリマス、唯今ノ大澤君ノ御演說中ニ各國ノ飲酒ノ量ノ増加ノ割合ヲ御述べニナリマシタガ、我邦ニ於ケル飲酒ノ増減ノ割合ハ如何ニナッテ居リマスカ、益々年々増スコトニナッテ居リマセウカ、或ハ減ズルコトニナッテ居リマセウカ

〔政府委員有松英義君演壇ニ登ル〕

○政府委員(有松英義君) 唯今ノ御尋ネニ付キマシテハ調査イタシテ居リマセヌ、私カラハ御答ガ出來兼ネマスデゴザイマス

○鎌田榮吉君 是ハ大抵分ッテ居ナケレバナラヌト思フ、斯ウ云フ全體ノ造石ノ量ト云フモノト人口ノ割合ト云フモノガ分ッテ居ル以上ハ増減クラキノコトハ、ドウシテモ分ッテ居ラナケレバナラヌ、又此法ヲ設ケル上ハ全體、此弊害ハ益、増シツ、アルカ、飲酒ノ弊ト云フモノハ減ジツ、アルモノデア

ルカト云フコトハ此案ノ可否ニ大ニ關係スル……

〔政府委員有松英義君演壇ニ登ル〕

○政府委員(有松英義君) 取調ベマシテ、追ッテ御答ヲ致シマス

○男爵石黒忠惠君 本員ハ本案ニ付キマシテ賛成ヲ致シマセヌ一人ト致シマシテ、唯今大澤博士カラ段々辯明サレマシタコトニ付キマシテ、已ムヲ得ズ一應賛成ヲ致シマセヌ趣意ヲ明ニ致シマセヌケレバ相成リマセヌ場合ニ立至リマシタ、是デ述ベマシテ宜シウゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 宜シウゴザイマス

○男爵石黒忠惠君 唯今、少數意見ヲ以チマシテ大澤君カラ縷々御述ベニナリマシタガ、我々之ヲ賛成イタシマセヌ委員ノ一同トテモ酒ヲ決シテ無害ノ物ト云フコトハ一言モ申シテ居リマセヌ、速記録ノ中ニ殊ニ本員ナドハ殊サラ酒ヲ好マヌ者デア、酒ヲ戒メルモノデアルト云フコトモ明言イタシテゴザイマス、實踐躬行シテ居ルトマデ明言シテゴザイマス、而シテ本員等ノ之ヲ賛成イタシマセヌト云フ所以ハ、斯ノ如キ少年ノ風紀若クハ衛生ニ關係ヲ致シマスルコトノ心ヲ養成イタシマスルコト云フコトハ、重モニ家長、教育家、宗教家、衛生家ノ自任イタシマスルコトデ、斯ノ如キコトヲ法律ノ力ヲ以テ強制スルト云フコトハ、實ニ家長若クハ教育家、宗教家、衛生家ハ臍甲斐ナイモノダト云フ考ヘダラウト斯ウ存ジマス、故ニ決シテ酒ニ害ガ無イト云フコトハ一言モ申シテ居リマセヌ、又唯今大澤君ノ縷々御陳述ニナリマシタ中ニハ、我々初メテ承知イタシタコトモゴザイマスガ、併シ此大部分ハ満場ノ諸君ガ御承知ノコトデアラウト斯ウ存ジマス、ソレデ本員等ガ之ヲ賛成イタシマセヌト云フ所以ハ、宗教家、教育家若クハ衛生家ニ重キヲ置キマシテ、斯ノ如キコトハ右ノ輩ガ重モニスルコトデ、法律ノ力ヲ藉リテ之ヲ抑制イタシマスルコト云フコトハ、ヨクノ詰リデナケレバナナマイ、斯ウ云フ趣意デゴザイマシテ、決シテ酒ヲ宜シイ、貴族院デ之ヲ認可シタラ飲酒家獎

勵法ニナルト云フヤウナ存念ハ些カモゴザイマセヌノデゴザイマス、ソレデ且又コレハ喫煙ノ禁止法ナド、大分類似イタシテ居リマスモノ、ヤウニ存ジマスノデ、既ニ昨年此法案デハゴザイマセヌガ、未成年者禁酒法案ガ出マシタトキニ委員會ニ於キマシテ、此犯罪者ノ處分ノコトニ付イテ質問ヲ致シマシタ所ガ、四十一年ニハ各府縣ニ於テ一番犯罪者ヲ出シマシタ多イ縣ハ兵庫縣デ、兵庫縣デハ一万四千五百七十四人ノ犯罪者ガゴザイマス、一番少ナイ縣ガ佐賀縣デ、タッタ九人ノ犯罪者デア、此時ニ内務省ノ政府委員ニ私ハ

申シマシタ、是ハドウ云フモノデアリマセウ、佐賀縣ノ煙草ノ賣レ高ト云フモノガ大層少ナクツテ、兵庫縣ガ多イトデモ云フヤウナ事柄デモ段々御比較ニナツテ何カ御調査ガゴザイマシタラウカト聞キマシタ所ガ、別ニ調査ハ無イ、斯ノ如キコトハ警察ノ手加減デ行カラスノ如キ相違デア、別デアラウト云フコトデゴザイマシテ、ドウカ法律ノ出マシタ以上ハ斯ノ如キ大差ノ無イヤウニ希望スルト云フヤウナコトヲ申述ベテ置キマシタカニ存ジマス、是ガ四十二年度ノ處分ノ人數ヲ調ベテ貰ヒマシテ見マシタ所ガ、四十二年度ニ於キマシテハ京都ガ一番大多數デ、二万七千六百十八人ゴザイマス、トコロデ熊本縣ハ二十七人、ソレカラ島根縣ガ十八人、斯ウ云フ差ガアル、或ル縣ニ於テハ二万七千六百十八人、或ル縣ニ於テハ十八人、斯様ナ差ガアル、サウ致シマスト此法案ガ出マシテモ矢張り斯ウ云フヤウナコトデ謂ハユル手加減ト云フヤウナコトデ、或ル縣デハ十八人、或ル縣デハ二万何千人ト云フヤウナ相違ガゴザイマシテハ、私ドモ考ヘニシテ法律ト云フモノハ嚴霜烈日ノ如キモノデ、出タラバ犯スベカラザル重キヲ置カナケレバナラヌモノト存ジマス、斯ノ如キ相違ノアルヤウナコトデハ如何ガアラウカ、依ッテ我々ハ未成年ノ禁酒ト云フヤウナコトニ付キマシテハ、宗教家、衛生家、教育家ニ重キヲ置キマスルコト云フコト、法律ニ重キヲ置キマスルコト云フ、此二點カラ致シマシテ賛成ヲ致シマセヌノデ、酒ヲ飲ミマスルコト云フコトニ付キマシテハ絶對的ニ之ヲ害惡ト認メマスルコトハ先刻ノ發論者ニ一步モ譲リマセヌノデゴザイマス、唯論旨ヲ明ニシテ置キマスル爲ニ述ベマシタノデ、尙ホ之ニ付イテ御論モゴザリマセウガ本員ハモウ自説ハ述ベマセヌ

○子爵曾我祐準君 私ハ少數意見者ニ同意スル者デゴザイマス、唯今石黒男爵ハ宗教家、衛生家ニ御委託ナスツテ法律デヤラスト云フ御議論デアリマスガ、是ハ餘程ヲカシイ御議論ト思ヒマス、何トナレバ今煙草ノ例ヲ御引キナ

サルケレドモ、掏兒デモ何デモ調ベテ見タラ各府縣違フニ相違ナイ、アナタハ煙草ノミヲ仰シヤルケレドモ盜賊デモ非常ニ違フ、其違フ所以ハイローノ理由ニ依ッテ違フ、又警察力ト雖モ天下諸縣ヲ一齊ニスルト云フコトハ、到底出來ヌコトハ分リ切ッテ居ル、併ナガラ成ルタケ同様ニ行ハレルコトヲ希望スルハ爲政者ノ願フ所デアル、我々議員トシテ惡ルイモノヲ法律ノ力デ以テ禁ズルト云フコトヲ賛成スルハ何ノ不可カアル、何ノ不可ガ之ニア、決シテ又世ノ中ノコトハ衛生家ノミニ託スベキモノデナイ、學者、宗教者ニ託スベキモノデモナイ、若シモ學者、宗教者ニ託シテ宜シナラバ、盜賊ナドモ學者、宗教者ニ託シテ宜イ筈デアル、我々ハ善イコトデアルカラドコマデモ之ニ賛成シテ少數者ノ意見ノ成立セムコトヲ希望スル者デアリマス

○男爵船越衛君 私モ少數意見ニ賛成デゴザイマス

○鎌田榮吉君 本員ハ是カラ意見ヲ述ベマス、唯今政府委員ニ質問イタシマシタ所ガ、詳細ノコトハ分リマセヌデ、チョット困リマシタガ、併シ本員ノ記憶ニ依リマスト全體造石高ハ餘リ殖エナイノデアル、聞ク所ニ依ルト云フト舊幕時代ニ於テモ造酒高ハ四百万石、又其後今日ニ至ッテモ餘リ殖エナイト云フヤウナ譯デアリマシテ、全體人口ノ増加シタニモ拘ラズ造石ノ割合ハ殖エナイ、要スルノニ日本國民ハ酒ヲ飲ムコトニ於テ餘リ進歩セナイ人間デアル、全ク歐米各國ノ有様トハ反對ノ割合ニ進ンデ參ッテ居ルノデ、態々法律ヲ設ケルト云フ上ニ付イテハ此事ガ無クテハ益、將來増長シツ、アルカ否ヤト云フコトガ、是ガ此法ヲ設ケルト設ケナイトノ分ル、岐點デアラウト思ヒマス、苟モ法ヲ設ケル以上ハ今石黒男爵ノ御説ノ如クニ、益、法ヲ嚴守スルト云フ習慣ヲ失ハシメヌ譯ニナラナケレバナラス、徒ニ是モ法律ヲ以テ禁ズル、アレモ法律ヲ以テ禁ズルト云ッテ、無闇ニ法律ヲ濫製スルト云フコトハ甚ダ宜シクナイト思ヒマス、殊ニ少年ノ酒ヲ飲ムコトノ惡ルイコトハ無論ノ話デアリマスガ、酒ヲ買フト云フコトニハ時々子供ヲ使フノデアリマス、日本デハ謂ハユル樽拾ヒノ子ト云フ、酒屋ガ酒ヲ供給スルノニモ子供ヲ使ヒ、又家庭ニ於テ親父ガ仕事カラ歸ッテ來テ、其家内ハ食事ノ仕度ヲスル、子供ハ酒ヲ買ヒニ行クト云フヤウナ譯デ、酒ヲ買フノハ子供ノ仕事ニナッテ居ル、此習慣ガアル所デ一々是ハ自用デアルカ他用デアルカト云フコトノ區別ヲ立テ、取締ルト云フコトハ、甚ダソレガ爲ニ起ル弊ハ非常ニ多イモノダラウト考ヘマスカラ、私ハ之ニハ絶對ニ反對デアリマス、成ルホド或ル場合ニハ禁

ズベキ法ガ有ッタラ宜イト云フ感ジガ起ルコトモアルカモ知レマセヌケレドモ、大體ニ於テ將來、酒ノ害ト云フモノハ減ジツ、アル、今現ニ料理屋デアリマスとか酒屋デアリマスとか云フモノニ就イテ聞キマシタ所ガ、以前ノ如ク暴飲スル者ガ無クナッテ來テ居ル、酒ヲ飲ムコトガ段々減ッテ居ルト云フコトデアル、我々ガ宴會ノ有様ヲ見シテモ飲酒ノ量ト云フモノハ非常ニ減ジテ居ル、以前ノ如ク英雄酒ヲ好ムト云ッテ飲ムコトヲ自慢トスルト云フヤウナ惡風ハ大ニ減ジテ來タノデアリマスカラ、今日ノ景況ヲ見マス殊更ニ法律ヲ設ケテ之ヲ矯正スルト云フ必要ハ更ニ認メマセヌ、是ハ絶對ニ反對ヲ致シマス

○議長(公爵徳川家達君) 採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵徳川家達君) 少數ト認メマス

○伯爵徳川達孝君 異議ノ申立ヲ致シマス

○議長(公爵徳川家達君) 異議ノ申立ニハ定規ノ賛成者ヲ要シマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十五、日露戰役城津被害民救済ノ請願、第十六、酒造税法改正ニ關スル請願、第十七、郵便局設置ノ請願、第十八、地租輕減ノ請願、第十九、郵便局設置ノ請願、第二十、郵便局設置ノ請願、第二十一、煙草專賣法中葉數査定廢止ノ請願、第二十二、葡萄酒關稅輸入稅ニ關スル請願、會議

(左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ)

意見書案

日露戰役城津被害民救済ノ件

韓國元山港春日町平民貿易商大田儀三外八名呈出

右ノ請願ハ請願人等ハ明治三十七年城津ニ在留中日露戰役ニ會シ多年ノ辛苦ニ成レル蓄積ハ舉ケテ之ヲ兵火ニ委スルニ至リタルヲ以テ再三帝國議會ニ對シ之カ救済ヲ求ムルノ請願ヲナシ毎回採擇セラレタルモ未タ何等ノ恩典ニ浴セス然ルニ露領及韓國内ニ於テ該戰役ノ爲損害ヲ受ケタル他ノ者ハ救済セラレタルモ請願人等ハ獨未タ何等ノ恩典ニ浴セサルニ依リ速ニ其ノ

詮議ニ出テラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノ
ト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

酒造税法改正ニ關スル件

群馬縣酒造組合聯合會長狩野定次郎呈出

右ノ請願ハ現行酒造税法ハ酒造業者ヲシテ甚シク悲境ニ沈淪セシムルモノ
ナルヲ以テ之ヲ緩和セシメ併セテ税源ヲ涵養スル爲酒造税納期第四期ヲ五
月ニ繰下ケ及火入貯藏減トシテ清酒百分ノ五ヲ控除シ之ニ對スル造石税ヲ
免除セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議
決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

郵便局設置ノ件

德島縣麻植郡東山村長金澤萬平呈出

右ノ請願ハ德島縣麻植郡東山村ハ區域廣大ニシテ山嶽四方ヲ繞リ交通ノ不
便甚シク又近時探鑛森林蠶桑ノ業大ニ發達シ來リタルニ交通ノ不便ト金融
機關ノ不備トハ農民ノ貯蓄心ヲ減退セシメ遊惰奢侈ノ風ヲ傳播セシムルヲ
以テ無集配郵便局ヲ設ケ産業ノ發展ト民風ノ振興トニ資セラレタシトノ旨
趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六
十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案
地租輕減ノ件

愛知縣西春日井郡西枇杷島町平民川島松次郎外四百七十六名呈出(七
通)

長崎縣西彼杵郡時津村平民農川島半三郎外四千五百五十四名呈出(六十
二通)

和歌山縣日高郡三尾村平民農小山申一郎外四百四十五名呈出(五通)

岡山縣勝田郡勝加茂村平民農服部喜一郎外四十九名呈出

同縣兒島郡八濱町平民農藤原元太郎外千二百二十二名呈出

栃木縣上都賀郡日光町平民農齋藤富吉外千六百九十九名呈出(九通)

千葉縣匝瑳郡南條村平民農大木與平外八百十六名呈出(五通)

靜岡縣安倍郡豐田村平民農井上彦左衛門外七百九十一名呈出(四通)

宮城縣登米郡寶江村平民農千葉喜藏外三百四十四名呈出

福井縣坂井郡兵庫村平民農田端庄右衛門外四百六十六名呈出(六通)

愛知縣東春日井郡品野村平民農柴田要助外十六名呈出

靜岡縣庵原郡由比町平民農志田敬一外六千三百三十五名呈出(二百七通)

廣島縣賀茂郡西志和村平民農三川涉外九百四十五名呈出(六通)

神奈川縣足柄上郡共和村平民農井上七三外三千二百十九名呈出(四十
三通)

滋賀縣甲賀郡雲井村平民農宇田小之松外百九十八名呈出(五通)

山梨縣西山梨郡千代田村平民農末木熊次郎外四千六百一名呈出(百十
一通)

滋賀縣蒲生郡安土村平民農矢野平四郎外四千九百四十九名呈出(百四
十一通)

兵庫縣多可郡津方村平民農來住萬之介外三十五名呈出

茨城縣行方郡八代村平民農前島忠次郎外四十一名呈出

栃木縣宇都宮市博勞町平民農篠原友右衛門外三百八十八名呈出

同縣安蘇郡佐野町平民農小島和平外三千八百八十九名呈出

岡山縣苦田郡芳野村平民農河田繁穗外十六名呈出

愛知縣幡豆郡西尾町平民農高須岩太郎外五十八名呈出

岐阜縣安八郡中川村平民農立川準一外十五名呈出

兵庫縣赤穂郡鹽屋村平民農住田新吉外百二十八名呈出

福岡縣三池郡大牟田町平民農野口忠太郎外六千二百二十四名呈出(四通)

廣島縣豐田郡高坂村平民農西内海助外千三百七十八名呈出(十六通)

德島縣阿波郡伊澤村平民農割石易治郎外四百四十六名呈出(三通)

福島縣信夫郡平田村平民鈴木與吉外千七百八十八名呈出(十一通)

群馬縣新田郡世良田村平民金子源助外百九名呈出(二通)

大阪府三島郡茨木町平民農北村平七外二千五百七十二名呈出(九通)

德島縣美馬郡西祖谷山村平民農德善正一外三千六百三十名呈出(五十一通)

宮城縣宮城郡七鄉村士族早川智寬外千一百七十七名呈出

兵庫縣加西郡在田村平民農藤本万次郎外四千三百二十二名呈出(十一通)

廣島縣甲奴郡甲奴村平民農渡邊就三外六千四百六十六名呈出(五十三通)

山形縣最上郡新庄町長大塚繁之輔外十六名呈出

群馬縣邑樂郡大箇野村平民農高瀬平一郎外五百五十四名呈出(四通)

福井縣今立郡新橫江村公吏三田村賀一郎外五百七十七名呈出(八通)

静岡縣引佐郡氣賀町平民農中村健次郎外二百十九名呈出(四通)

福島縣石川郡母畑村平民農永沼要人外七千五百三十七名呈出(二十九通)

長崎縣北松浦郡中里村士族農山下兵太郎外一万五千八百二十五名呈出(二百五十三通)

愛知縣寶飯郡國府町農平松治郎左衛門外三十名呈出

巖手縣盛岡市仁王小路士族公吏太田忠善外百四十九名呈出

千葉縣匝瑳郡匝瑳村平民農關浩已外二千六百六十一名呈出(二通)

兵庫縣加東郡河合村士族農斯波與七郎外二百八十三名呈出

廣島縣賀茂郡阿賀町平民多川萬助外八百名呈出(七通)

栃木縣下都賀郡皆川村平民農野原政次外七千四百三十二名呈出(四十三通)

和歌山縣伊都郡富貴村平民農名迫行輝外五百五十七名呈出(十三通)

岐阜縣可兒郡兼山町平民農劑師藤掛文平外五十二名呈出(三通)

青森縣西洋津輕郡柏村農山内佐五兵衛外七十八名呈出

山梨縣北都留郡丹波山村平民農廣瀨義平外千八百八名呈出(四十四通)

奈良縣添上郡東市村平民農北尾由松外千二百四十三名呈出(十五通)

茨城縣結城郡水海道町平民農風見力三郎外七百七十二名呈出(十三通)

長野縣南佐久郡野澤町長三浦多三郎外二十二名呈出

廣島縣豐田郡瀬戸田町平民農堀内調右衛門外四千四百七十六名呈出(二十九通)

右ノ請願ハ各其ノ陳述スル所ニ多少ノ差違アリト雖要スルニ現今農民ハ苛重ナル地租ヲ負擔シ加フルニ近年地方財政ニ伴フ巨額ノ經費ハ悉ク地租額ヲ標準トシテ賦課セラレ收入ノ過半ヲ徵收セラレ又ハ經濟界ノ不振ニ遇ヒ殊ニ米價ノ下落ニ依リテ收支相償ハス其ノ困難一方ナラサルヲ以テ之カ實狀ニ鑑ミ此ノ際地租ノ幾分ヲ輕減セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

郵便局設置ノ件

岡山縣上房郡水田村長太田鹿五郎外二名呈出

右ノ請願ハ岡山縣上房郡水田村ハ交通ノ要衝ニ當リ村内ニ新町ナル小市街ヲ包有シ人貨ノ集散夥シキニ拘ラス明治二十七年同村所在ノ郵便局廢止セラレタリ然ルニ爾來世運ノ進歩ニ伴フ商工業ノ發達ハ倍通信ノ不便ヲ感セシムルコト甚シキニ至リタルヲ以テ同村新町ニ郵便局ヲ設置セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

郵便局設置ノ件

岡山縣川上郡松原村長關員助役平松代太郎呈出

右ノ請願ハ岡山縣川上郡松原村ハ上房郡川面郵便局ノ所管ニ關スルモ距離遠ク交通不便ニシテ爲替貯金小包其ノ他郵便物ノ發送上不便ヲ感スルコト甚シク又假令他ノ郵便局ノ所管ニ屬セシメラルルモ不便ヲ減スルコト能ハサルヲ以テ速ニ同村ニ郵便局ヲ設置セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

煙草專賣法中葉數査定廢止ノ件

神奈川縣足柄上郡上秦野村平民農熊澤好太郎外二百七十四名呈出(五通)

右ノ請願ハ煙草專賣法中煙草葉數査定ニ關スル規定ハ收納上ノ犯則者ヲ拘束セムトシテ反テ誠實ナル一般耕作人ヲ過度ニ牽束スルノミナラス査定上ノ手續繁苛ニシテ煙草耕作ノ振興ヲ害スルノ弊アルヲ以テ該規定ノ全部ヲ削除セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

葡萄酒關稅輸入稅ニ關スル件

甲州葡萄酒釀造同業組合長宮崎光太郎呈出

右ノ請願ハ甲州葡萄酒釀造業ノ永ク振ハサル所以ノモノハ主トシテ本邦產

ノ葡萄酒ニハ巨額ノ租稅ヲ課スルニ反シ外國產ノ葡萄酒ニハ一般ニ低率ナル輸入稅ヲ課スルヲ以テ之カ輸入夥シキニ由ル故ニ日佛通商條約中ノ葡萄酒ノ協定稅率ヲ廢シ其ノ輸入稅率ハ第二十四回帝國議會ノ議決ヲ經タルモノヨリ降ルコトナカラシメ又殊ニ甘味葡萄酒ニ關シテハ一層ノ重稅ヲ課セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

○議長(公爵德川家達君) 議事日程ノ第十五ヨリ第二十二マデノ請願ハ請願委員長ノ報告通リテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十三、大津神宮創設ノ請願、第二十四、孝子旌表ノ請願、第二十五、柞蠶絲輸入稅全廢ノ請願、第二十六、報效志士表彰追録ノ請願、第二十七、中仙道鐵道幹線敷設ノ請願、第二十八、郡域變更ノ請願、第二十九、四國縱貫鐵道速成ノ請願、會議

意見書案

大津神宮創設ノ件

滋賀縣大津市伊勢屋町平民公吏西川太治郎外三十七名呈出

右ノ請願ハ 天智天皇ハ中興ノ英主ニシテ 天皇ノ偉業ハ國民ノ均シク瞻仰シ奉ル所ナルニ拘ラス遺蹟晦滅シテ崇敬ヲ致スノ途ナキハ其悲シムヘキコトナルヲ以テ由緒アル大津市内長等山ノ靈域ニ 天皇ヲ奉祀スヘキ一神社ヲ造營セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案
孝子旌表ノ件

長崎縣下縣郡嚴原町士族吉田八助呈出

右ノ請願ハ忠孝ハ我國古來ノ國是ナリ然ルニ近時貴賤唯利ヲ計リ人心ノ腐敗甚シキヲ致セルハ一ニ斯道ノ頹廢シタルニ因ル故ニ此ノ弊風ヲ除去シテ忠孝ノ道ヲ昭カニセムカ爲大ニ忠臣孝子ヲ旌表セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

柞蠶絲輸入税全廢ノ件

岐阜縣岐阜市神田町平民絲商佐久間玲吉外六名呈出

右ノ請願ハ柞蠶絲ハ工業原料品ニシテ獨我國ノミ之ニ輸入税ヲ課セラルルハ工業國ノ本旨ニアラス又假令柞蠶繭ヲ無税ト爲スモ彼我工費ノ差多クシテ之カ輸入ヲ望ムヘカラサルヲ以テ柞蠶絲ヲ純然タル原料品トシ且諸外國ニ於ケルカ如ク之カ輸入税ヲ免セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

報效志士表彰追録ノ件

東京市牛込區市ヶ谷藥王寺前町伯爵大原重朝呈出

右ノ請願ハ天保元年ヨリ明治二十三年ニ至ル期間ニ於ケル報效盡節ノ志士ニシテ未タ表彰追録セラレサル者アルヲ以テ其ノ事歴ヲ調査シ贈位叙位ノ恩典ヲ蒙ラシメ弔慰料ヲ賜ヒ追録ヲ與ヘラルル等相當ノ恩恤ニ浴セシメラ

レタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

中仙道鐵道幹線敷設ノ件

岐阜縣岐阜市長服部正外十九名呈出

右ノ請願ハ岐阜縣岐阜ヨリ多治見ニ至ル鐵道ノ敷設ハ當ニ同縣下ノ産業ヲ發達セシメ人文ヲ開發スルニ必要ナルノミナラス國家ノ經營上亦闕クヘカラサルヲ以テ之ヲ速成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

郡域變更ノ件

群馬縣山田郡休泊村平民農武藤德太郎外五十三名呈出

右ノ請願ハ群馬縣山田郡毛里田村斐川村矢場川村休泊村ハ山田郡ノ東南ニ在リテ下山田郡ト稱シ古來新田郡ト人情風俗産業水利等ヲ同ウシ通信登記ノ事務ハ總テ新田郡太田町所在官衙ノ管轄ニ屬スル等之ト密接ノ關係ヲ有スルニ反シ山田郡内上山田郡地方トハ此等ノ關係薄ク且郡役所所在地ヲ距ルコト遠ク交通ニ不便ナルヲ以テ該四箇村ヲ新田郡ノ區域ニ編入セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

四國縱貫鐵道速成ノ件

德島商業會議所會頭井内太平呈出

右ノ請願ハ四國縱貫鐵道ノ完成ハ四國ニ於ケル豐富ナル陸海ノ物產ヲ運輸シ從來阻礙セラレタル商工業ノ發展ニ資スルニ最緊要ナルノミナラス四國ノ住民ヲシテ本州北海道等ニ於ケルト齊シク鐵道ノ便ヲ得シムルモノナルヲ以テ第一期線ニ繰上ケ之ヲ速成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

○田中芳男君 唯今問題ニナリマシタ所ノ請願ノ中ノ第二十八ノ請願ハ本日、本會ニ於テ議決ニナリマシタ所ノ第十三ト同物デゴザイマスルカラシテ、一方デ否決シテ一方デ採擇スルト云フ譯ニ行キマセヌカラ、是ハ撤却イタシマスルカラ、皆サンドウカ御承知ニナルヤウニ願ヒタウ存ジマス

○男爵石黒忠恵君 此第二十六ノ報效志士表彰追録ノ請願、コレデチヨット委員長ニ伺ヒタウゴザイマスルガ、此請願ハ「天保元年ヨリ明治二十三年ニ至ル期間ニ於ケル報效盡節ノ志士」云々トゴザイマスルガ、同ジク報效盡節ノ志士ヲ表彰スルコトニ付キマシテ、天保元年ヨリ明治二十三年マデト云フノ期限ヲ置カレマシタルノハ、ドウ云フ譯デゴザイマセウカ、チヨット解シ兼ネマスルガ……

○田中芳男君 唯今御質問ニナリマシタノハ此意見書ニ書キマシタヤウナ譯デ、元年カラ二十三年ト云フノハ詰リ御維新前後ノ、アノ世ノ中ノ一番ムヅカシカッタ時ノモノヲ取分ケテト云フコト、本員ハ考ヘテ居リマス

○木村誓太郎君 第二十八否決ノ田中君ノ説ニ賛成ヲ致シマス

○議長(公爵德川家達君) 唯今議事日程ノ第二十三ヨリ第二十九マデ問題ニ供シマシタガ、第二十八ニ付イテ田中君ヨリ動議ガ出マシタカラ、先ヅ採決イタシマスノハ第二十三ヨリ第二十七マデノ請願ニ付イテ採決ヲ致シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 是等ノ請願ハ請願委員長ノ報告通り御異存ゴザイ

マセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程ノ第二十八ニ付イテ田中君ノ動議ニ對シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十九、請願委員長ノ報告通り御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第三十、郵便局設置ノ請願、第三十一、糖業政策ニ關スル請願、第三十二、町村制中改正ノ請願、第三十三、北海道留萌増毛間鐵道速成ノ請願、第三十四、大學校學則補闕ノ請願、第三十五、山陰縱貫鐵道速成ニ關スル請願、第三十六、廣島江津間鐵道速成ニ關スル請願、第三十七、絹絲試驗場設立ノ請願、第三十八、交通機關整備ノ請願、第三十九、交通機關整備ノ請願、第四十、鐵道速成ニ關スル請願、第四十一、郵便局ニ電話架設ノ請願、第四十二、九州北海道海岸鐵道敷設ノ請願、第四十三、四國鐵道速成ニ關スル請願、第四十四、工場法案修正ノ請願、第四十五、石ノ卷小牛田間鐵道敷設ニ關スル請願、第四十六、大分縣大野郡重岡村小野市村ヲ南海郡ニ編入替ノ請願、第四十七、熊澤惟興追賞ノ請願、會議意見書案

郵便局設置ノ件

大阪府北河内郡九個庄村平民農中村要藏呈出

右ノ請願ハ九個庄村ハ大阪府北河内郡内第一ノ大村ニシテ水陸運輸ノ便ニ富ミ工場多ク戸口増殖シ交通甚頻繁ナリ然ルニ明治二十三年隣村所在ノ太間郵便局ノ廢止セラレタルヨリ以來郵便局ヲ距ルコト遠ク益通信ノ不便ヲ感スルニ至リタルノミナラス貯金獎勵ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ同村ニ郵便局ヲ設置セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

糖業政策ニ關スル件

香川縣大川郡白鳥村平民砂糖業鎌田長五郎外六百六十九名呈出(二通)
鹿兒島縣大島郡住用村砂糖業屋龜七外三百四十名(二通)

右ノ請願ハ砂糖消費稅法改正案ニ依レハ樽入黑糖ニ付獨從來ノ稅率ヲ課シ
他種糖ニ付テハ總テ之ヲ輕減セラルモノノ如シ斯ノ如キハ前期議會ニ於
テ與ヘラレタル砂糖消費稅法改正ノ恩澤ヲ水泡ニ歸セシメ且黑糖業ヲシテ
競走上全滅ノ悲境ニ陷ラシムルモノニシテ當業者ノ困難一方ナラサルカ故
ニ黑糖ノ稅率ヲ輕減シ併セテ内地ノ糖業ニ對シ臺灣ニ於ケル糖業ニ對スル
ト同等ノ政策ヲ採ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘ
キモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

町村制中改正ノ件

山形縣最上郡舟形村平民農沼澤清吉外十一名

右ノ請願ハ現行町村制ノ規定ニ依レハ議員ノ選舉ハ連記投票ノ制ニ依ルヲ
以テ黨派心ノ熾ナル山形縣最上郡舟形村ニ於テハ議員ハ悉ク之ヲ多數黨ヨ
リ選出シ吏員ノ選舉村稅ノ賦課等ニ關シ種種ノ弊害續出スルヲ以テ之ヲ單
記投票ノ制ニ改正シ明治四十四年ヨリ實施セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族
院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ
別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

北海道留萌增毛間鐵道速成ノ件

北海道增毛郡增毛町平民商本間秀藏外三十七名呈出
右ノ請願ハ北海道鐵道ハ本年十月ヲ以テ留萌マテ敷設セラルヘシト雖同港
ノ修築ハ十二年ノ後ヲ俟テ漸ク完成ヲ告クヘキニ依リ水陸連絡ノ不便甚シ
キヲ以テ增毛港ヲ留萌港ノ補助港タラシムル爲速ニ留萌增毛間ノ鐵道ヲ竣
成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決
致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

大學校學則補闕ノ件

東京市麻布區麻布六本木町平民清水廣次呈出
右請願ハ天祖ノ遺訓ト教育勅語ノ聖旨トニ基キ大學ニ明倫科ヲ設ケ四子六
經ヲ以テ學問ノ規矩トナシ且歴史ニ涉リ斯道ヲ明ニシ以テ風俗ヲ敦ウシ聖
旨ニ副ヘ奉ラムコトヲ計ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採
擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

山陰縱貫鐵道速成ニ關スル件

島根縣鹿足郡津和野町長原新七外三十二名呈出
同縣那賀郡漁山村平民農藤井宗昭外三十三名呈出
同縣邇摩郡大森町商河泉波衛外二十九名呈出
右ノ請願ハ山陰縱貫鐵道中今市ヨリ山口ヲ經テ小郡ニ通スル線路ハ未タ起
工ノ時期ヲ知ルヲ得スト雖之カ竣工ハ地方ノ交通ノ利便ヲ開キ軍事上行政

上及殖産上最必要ナルヲ以テ之カ速成ノ方針ヲ定メ且今市小郡ノ兩地ヨリ起工セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達
内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

廣島江津間鐵道速成ニ關スル件

島根縣邑智郡川本村長寺本松若外百十九名呈出

右ノ請願ハ廣島江津間ノ鐵道ノ敷設ハ管ニ沿道地方ニ於ケル交通運輸ノ利便ヲ開クニ必要ナルノミナラス國防上及對外貿易上緊要ナルヲ以テ之カ敷設ノ豫定年度ヲ繰上ケ第一期線トナシ速ニ工事ニ著手セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達
内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

絹絲試驗場設立ノ件

横濱輸出絹物同業組合組長岡部菊太郎呈出

右ノ請願ハ本邦絹布ノ海外市場ニ於テ競争上ノ不利ヲ招クハ主トシテ之カ仕上整理ノ周到ナラサルニ因ルカ故ニ原絲ノ集中地タル横濱ニ工場ノニ技藝ノ研究ヲナスヲ主眼トスル絹絲試驗場ヲ設立シ仕上、精練及浸染、捺染、機械、科學的試驗等ヲ行ヒ斯業ノ發展ニ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達
内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

交通機關整備ノ件

北海道函館區東川町平民鑄鐵業有江金太郎外二百七十九名呈出

右ノ請願ハ渡島國函館ヨリ江差ニ至ル鐵道、膽振國國縫ヨリ後志國瀨棚ニ至ル鐵道及渡島國木古内ヨリ福山ニ至ル鐵道ノ敷設ハ該地方ヲ開發シ幹線ノ利益ヲ増進シ北海道ノ拓殖ニ最緊要ナルヲ以テ之ヲ速成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達
内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

交通機關整備ノ件

北海道山越郡長萬部村士族公吏國府盛恆外三百七十五名呈出

右ノ請願ハ渡島國函館ヨリ江差ニ至ル鐵道、渡島國木古内ヨリ福山ニ至ル鐵道、膽振國國縫ヨリ後志國瀨棚ニ至ル鐵道、膽振國長萬部ヨリ室蘭ニ至ル鐵道及渡島國森停車場ヨリ室蘭停車場ニ至ル連絡航路ハ地方ノ生産ノ振興ヲ計ルト共ニ又幹線ノ利益ヲ充實シ北海道ヲ開發スルニ必要ノ施設ナルヲ以テ速ニ之ヲ整備セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達
内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

鐵道速成ニ關スル件

北海道函館區大町平民商相馬哲平外四百二十九名呈出

右ノ請願ハ函館ヨリ膽振日高ヲ經テ十勝ニ至ル鐵道ノ敷設ハ管ニ北海道東南部地方拓殖ノ實ヲ擧グルニ必要ナルノミナラス國家ノ福利ヲ増進スル所

以ナルヲ以テ速ニ之ヲ完成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

郵便局ニ電話架設ノ件

島根縣飯石郡吉田村平民田部長右衛門外四十九名呈出

右ノ請願ハ島根縣飯石郡吉田村ハ交通ノ要衝ニ當リ加フルニ諸種ノ物産ニ富ミ旅客ノ出入物貨ノ集散夥シキニ拘ラス未タ電信電話ノ施設ナキハ該地方人民ノ大ニ不便トスル所ナルカ故ニ速ニ吉田郵便局ニ電話ヲ架設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

九州北海岸鐵道敷設ノ件

長崎縣北松浦郡大野村長富田敬吉外十六名呈出

右ノ請願ハ佐賀縣伊萬里ヨリ長崎縣田平ヲ經テ佐世保ニ至リ九州線ニ接續スル鐵道ノ敷設ハ九州北海岸地方ノ利源ヲ開クニ必要ナルヲ以テ之ヲ速成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

四國鐵道速成ニ關スル件

高知縣土佐郡旭村長岡崎誠吉外六名呈出

右ノ請願ハ四國鐵道ノ敷設ハ四國ニ於ケル各種ノ事業ヲ興シ軍事上ノ行動ニ關クヘカラサルノミナラス四國ノ住民ヲシテ漸ク本州北海道臺灣等ニ於ケルト齊シク鐵道ノ便ヲ得シムルモノナルヲ以テ之ヲ速成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

工場法案修正ノ件

福島縣伊達郡川俣町平民農大内專八外五十三名呈出

右ノ請願ハ工場法案ハ勞働者ノ年齢及勞働時間ニ關シ著シク實際ノ情況ニ適セサルモノアリ爲ニ多數細民ノ生活狀態ヲ紛亂シ延イテ産業ノ發達ヲ阻碍スルモノナルヲ以テ第三條中「十六歲」ヲ「十五歲」ニ「十四歲」ヲ「十三歲」ニ、第五條中「十六歲」ヲ「十五歲」ニ「十二時間」ヲ「十四時間」ニ、第六條中「十六歲」ヲ「十五歲」ニ及第八條第九條中「十六歲」ヲ「十五歲」ニ修正セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

石ノ卷小牛田間鐵道敷設ニ關スル件

宮城縣牡鹿郡石卷町平民生絲商武山芳右衛門外三百九名呈出

右ノ請願ハ酒田小牛田間ノ鐵道敷設費ノ豫算案ハ既ニ之ヲ帝國議會ニ提出セラレタルモ獨石ノ卷小牛田間ノ線路ヲ除外セラレタルハ當ニ該鐵道ノ目的ヲ完ウスル所以ニアラサルノミナラス物貨集散ノ中心タル石卷地方人民

ノ不利トスル所ナルヲ以テ之ヲ第一期線ニ加ヘ速成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

大分縣大野郡重岡村小野市村ヲ南海部郡ニ編入替ノ件

大分縣大野郡重岡村長渡邊用馬外一名呈出

右ノ請願ハ大分縣大野郡重岡村小野市村ハ地勢交通人情風俗等ノ關係上之ヲ南海部郡ノ區域ニ編入セラルトキハ公私ノ便利トナルヘキカ故ニ大野郡ヨリ分離シテ南海部郡ニ編入セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

熊澤惟興追賞ノ件

東京市小石川區小石川林町伯爵土方久元呈出

右ノ請願ハ熊澤惟興ハ夙ニ幕政ノ盛時ニ方リ勤王ノ志ヲ日本武尊傳等ノ著ニ寄セ大ニ世道人心ヲ鼓舞シ又深ク神陵御陵ノ頽破セルヲ憂ヒ自ラ各御陵所ヲ巡拜シ精細ニ其ノ地形眞景等ヲ描寫シ其ノ事實ヲ記載シ以テ御陵私記ヲ著セル等功績顯著ナリト雖獨未タ何等ノ恩典ニ浴セサルヲ以テ之ヲ追賞セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十三年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

○田中芳男君 唯今議題ニ上ボリマシタ中ノ第三十七ニ「絹絲試驗場」トゴザイマスガ、此ノ「絹絲」ノ「絲」ノ字ハ全ク誤リデゴザイマシテ「絹業」ト書クノ誤リデゴザイマシタカラ皆サン御訂正ヲ願ヒタイ、「絹業試驗場」デゴザイマス、序デニ立チマシタカラ申シマスガ、第四十四ノ工場法案修正ノ請願ト申シマスノハ、工場法案ハ政府デ撤回シタ以上、茲ニ請願ハ要ラヌダラウト云フ御考ヘノ御方モゴザイマセウガ、是ハ誠ニ親切ナル話デアル、アノ工場法案ハ諸方カラ餘ホド異議ヲ言ッテ出タ者ガゴザイマスガ、此請願者ハ誠ニ能ク出來タ工場法案デアルカラ其内、年齡十六ヲ十五ニシテ、十五ヲ十四ニシテ、十三ヲ十二ニシテタダサイト云フ、二三ノ修正ヲシテ、此修正サヘ用キテ吳レ、バ圓滿ナモノデアルト云フコトデアリマス、ソレデ決シテ請願者ノ言フ通りデアルカドウカ知レマセヌガ、是ハ採擇ニナルコト、スレバ政府ノ御參考ニナルコト、考ヘマスカラ、皆サントウジ左様御承知ヲ願ヒマス

○男爵野田豁通君 宜シウゴザイマス

○議長(公爵德川家達君)

○男爵野田豁通君 熊澤惟興ト云フ人ノ勤王ノ事蹟ニ付キマシテハ餘リ是マデ世ニ聞エタル事蹟モゴザイマセヌガ、然ルニ此請願ハ土方伯爵ヨリノ呈出デゴザイマシテ呈出書ニ依リマスレバ功績顯著云々ト云フコトモ認メテゴザイマス、書面ニ掲ゲテゴザイマス所ハ御陵ノ取調ニ付キマシテ舊幕時代ニ續イテ各地ニ巡回ヲ致シ、之ニ付イテハ特殊ノ功勞ガアルト云フコトデゴザイマスガ、同人ノ事蹟ト申シマスモノハ御陵取調ノコトノミデゴザイマスカ、尙ホ他ニ勤王ノコトニ付キマシテ顯著ナル事蹟モゴザイマスカ否ヤト云フコトヲ伺ヒタイ、ソレハ斯ノ如キ功績ノゴザイマス人ガ何故ニ是マデ追賞等ニナッテ居リマセヌカ、其事ト且ツ同人ハ熊澤蕃山ニ緣故ノ有ル人デゴザイマスヤ否ヤト云フコトモ序デニ伺ヒタイ、ソレ等ニ付キマシテ委員會デ御調査ノコトガゴザイマシタナラバ、モウ少シ委シク承リタウゴザイマス

○田中芳男君 唯今御質問ニナリマシタ點ニ付キマシテハ本員ハ委員長デハアリマスクレドモ、サウ委シイコトハ覺エテ居リマセヌガ、是ハ主査ノ方デ大抵御調べクダスッタコトデゴザイマスルガ、併シ是ニハ紹介議員ガゴザイマシテ紹介議員ハ餘ホド御委シイ、甚ダ委員長ハ勝手ナコトヲ申シマスルガ、ドウカ紹介議員ガ、此事ハ委員長ニ代ッテ御説明クダサルヤウニ願ヒ

タイ

〔男爵關義臣君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 御登壇ヲ促シマス

〔男爵關義臣君演壇ニ登ル〕

○男爵關義臣君 野田サンニ御答ヲ申シマスルガ、今ノ熊澤藩山ノ何カ血筋デモアルカト云フ結末ノ御尋ネデアリマシタガ、是ハサウデナイコト、心得テ居リマス、此人ハモト田中本多……田中本多ト申シテ駿州田中四万石ノ舊幕ノ譜代大名デゴザイマス、田中藩ノ家來デゴザイマス、熊澤太郎ト云フ俗稱デ惟興ト云フ諱デゴザイマスガ、是ハ請願人ノ土方伯ヨリ承ルノミナラズ文久安政ノ初メノ頃、私モ昌平坂學問所ニ於キマシテモ此人ノ門人ドモガ大分出テ來マシタ、奥田健吉、東達之助、深津某ナドガ六七人アリマス、此者カラモ私ドモハ熊澤惟興ノ偉績ハ澤山聞イテ居リマス、又此男ハ餘ホド著述モアッタ人デアリマシテ、其著述ハ私モ少シバカリ見タコトモアリマス、ソレ故ニ私モ此度、土方伯ノ請願ノ紹介議員ニナッタ所以デアリマス、ドウモ委シイ事ヲ申上ゲレバ餘ホド手間取リマスカラ委シイ事ハ申上ゲマセヌガ、極簡單ニ申上ゲルトシマシテモ、十分ヤ十五分ハドウゾ願ヒタウゴザイマス、惟興ハ幼年カラ學問ガ好きデアッタ……飛ビ〜申上ゲマスケレドモ……ソレカラ國學ニ最モ長ジテ居ッタ人デ、マア幼年ノ折ニ大日本史ヲ自分一個デ一箇月ニ寫シタト云フヤウナ鋭敏ナ人デアッタト見エル、ソコデ國學ニ明ルイカラシテ其著述モ悉ク征韓私記トカ、私史備考トカ、二紀遺事トカ……二紀ハ古事紀ト公事紀……元寇私記トカ、日本武尊傳トカ其他イロ〜ノ總テ國學ニ關スルモノバカリデアアル、ソレカラ勤王ノ志ヲ起シテ來タト思ハレルガ、文政六年六月ニ聖堂ヘ即チ昌平坂學問所ヘ入寮シマシテ、學ガ成ッタ三年デ、去ッテ藩ニ歸ッテ、藩ノ學校ノ教官トモナリ、又主人伯耆守ノ指南役トモナッタノデアリマス、サテ此藩主本多伯耆守ハ徳川家ノ譜代大名デ、若年寄、又寺社奉行ナドモ勤メ、又老中ヲモ勤メル家柄デアリマス、又惟興ガ指南ヲシタ伯耆守ハ丁度文久時代ニ昌平坂學問所奉行トナッタ勤メラレテ居リマシテ、私ドモ、知ッテ居リマスガ、此時分、幕府中葉以前ノ如キハ格別デアリマンケレドモ、嘉永安政ノ頃ニナッタ隨分泰平因襲ノ久シイモノデアッタカラシテ遂ニ幕政モ衰微ニ傾イテ來タヤウナ景況デアッテ、隨分有志ノ輩モ出來テ來タ、併シ有志ノ輩ハ幕府ノ役人ニ於キマシテ非望者トシテ治

世ニ害ガアルトカ、ソレカラ少シ時代ガ變ッテ居リマスケレドモ海國兵談ヲ著シタ林子平ハ塾居ヲ被ムッタトカ、渡邊崋山ガ夢物語ヲ著シテ禁錮ニナッタト云フヤウナ騒ギモアリマシタシ、此人モ餘ホド警戒ヲ加ヘタモノト見えテ此事ハ祕シ〜ニシテ勤王ノ志ヲ公然ト現スコトハ出來ナカッタノデスガ、併シ申上ゲタヤウニ書籍ハ澤山著ハシテ居ル、……ソコデモウ飛ビ〜ニ申上ゲマスケレドモ、此御陵私記ニ〔御陵私記ヲ示シテ〕付キマシテハ、豫ネテ國學者ダカラ御陵ノ事ヲ調べテ居リマシタ所ガ、其御陵ノ事ニ付キマシテ、ヒドイ頽廢ニナッタコトヲ非常ニ慨嘆シタモノデ、ソレデ躬自ヲ御陵ヲ廻拜セムトシテモ藩ノ規則トシテ、藩臣ハ他國ニ出ルコトヲ禁ジテ居ッタ、野田君モ肥後藩デ御承知デセウガ、藩ヲ出ルトキニハ伊勢參詣トカ、八幡參詣トカ、金毘羅參詣トカ、或ハ宮島參詣トカ、寺ニシテハ身延山トカ秋葉山トカヘ、參詣ト云フコトガ公然ト許シタ、ソコデ此男モ右様ナ譯デ社寺參詣トシテ弘化四年二月ニ許可ヲ得テ出テ行ッテ、神武天皇ノ御陵ヲ始メ各所ヲ晝夜兼行シテ百箇所カラ御陵ヲ歩イテ一々圖ヲ取ッテ僅カ三箇月グラキデ各御陵ヲ歩イテ來タト云フヤウナ話デ、尤モ此男ハ僕ノ龜二郎ト云フ者ヲ連レテ、龜二郎ハ繪ヲ心得テアッタノト、ソレカラ一ツニハ御承知ノ通り餘ホド御陵ハ杜撰ノモノデアッタカラ、是デ見ルト何デゴザイマス、神武天皇ノ御陵ト云フモノハ、或ハ大和高市郡白檀村デヤガ、是ハ舊幕時代ニハ旗下神保山城守ノ領地デ……領地デハナイ旗下デカラ支配地ニナッタ居ッタガ草木蓬々デ所ガ分ラナカッタト云フクラキデアアルシ、又開化天皇ノ御陵ハ大和國奈良ノ町ノ油坂村ノ村ノ墓地デ寺ガアッタ所デアアル、今日ハ奈良市ノ中ニ這入ッテ居ルノデスケレドモ、ソナナ所デアアルヤラ、又景行天皇ノ御陵ト云フモノハ大和國磯城郡柳本村ノ澁谷ト云フ所デ織田筑前守ノ領地ニアッタト云フヤウナコトデアアル、ソレガ後文久三年ニ御陵奉行ガ置カレマシテ是等ハ皆金ヲ出シテ地所ヲ買上ゲルト云フヤウナコトモアリ、或ハ獻上シタ所モアリマスガ、澤山アリマスカラ一々申上ゲマセヌ、ソナナヤウナコトハ餘ホド調ベルニ困難シタサウデアリマス、ケレドモ何方ヘ行ッテモ村ヘ行クト天子様ノ御墓ヲ見ニゴザッタカ、ソレハ感心ナ御方ダト云フノデ繩張ヲシテ間數ヲ測ル手傳ヲシタトカ、却ッテ村デ悅シタト云フ話デヤ、併シ其時分ニハ守戸ト云フモノハナイ、守戸ハ御承知ノ通り大寶令ニアッテ陵戸ヲシテ之ヲ守ラシムルト云ウテ、御陵ニハ皆、守戸ト云フモノガ無ケレバナラヌ、今日モ守

戸ト云フモノハアルデスケレトモ、當時モソシナ名義ノ家デ傳ハッタノガ有ッ
タサウナ、ケレドモ陵ハドコニアルヤ村デモ或ハ分ラナイト云フクラキデ
アツタカラ餘ホド困難シタガ、困難シテ辛苦シタガ、ソレハ却ッテ村ノ方ガ
助ケテ是ダケノモノガ二箇月カ三箇月デ出來タト云フモノダ、御承知ノ通り
是ハ誰デモ知ッテ居ルコトダケレドモ宮トカ寺トカ、或ハ金毘羅トカ、安藝
ノ宮島トカ、サウ云フ所ニナッテ來ルト繪圖ト云フモノハ德川時代ニモ澤山
出來テ居ル、ケレドモ、唯御陵ノ圖ト云フモノハ決シテ無イ、又御陵ヲ調ベ
タト云フモノハ德川時代ニハアルマイ、畢竟蒲生君平バカリデアル、蒲生君
平ハ文政三四年ニ調ベテ文政五年ニ山陵志ト云フモノヲ發行シテ、ソレニ付
イテ舊幕府ヨリ召捕ラレタコトガアル、トコロガ舊幕府ノ役人ノ中ニ君平ヲ
能ク知ッテ居ル有名ナ役人ガアッテ、ソレヲ保護シテ、一體書生ト云フモノ
ハ漫遊ヲ好ムノデ、御陵ヲ調ベテ來タノデモアルマイ、書生ノ大言壯語デ御
陵ノ事ヲ書イタ所ガ惡意ハアルマイカラ答メルニハ及ブマイト云ウテ保護シ
テ君平ガ免レタコトガアル、ソコデ惟興モ御陵ヲ調ベニ歩クニ付イテハ餘ホ
ド困難シタモノト見エル、併シ口碑ニ傳ハッテ居ル所デハ、主人本多伯耆守
ハ情ヲ知ッテ暇ヲ與ヘタト云フコトデアル、併シソレガ知レタラ幕府ノ時代
ニハ大事デアッテ、ナカノ先刻モ申上ゲタヤウニ蒲生君平デサヘモ山陵志
ガ一冊出來テ其クラキデアリマス、君平ノ山陵志ト云フモノハ漢文デ書キマ
シテ、イロ／＼議論モ入ッテ居ル、御承知デモアリマセウ、此御陵ガ此方ニ
移ッタト云フヤウナ議論モアルガ、アノ人モ歩イタニハ違ヒナイガ圖ガ無
イ、圖ガ無イカラ、私ドモ、讀ンダコトガアルガ方角ガ分ラナイ、トコロガ
此御陵私記ニ至ッテハ一々圖ガアル、何ノ方角デ、松ノ木ガ何本アル、石段
ガドレダケアルト云フヤウナコトマデ載ッテ居ル〔御陵私記ヲ示ス〕、ソレカ
ラ又御承知ノ持統天皇、持統天皇ノ茶毘以前ハ大ニ違ッテ居ル、ソレカラ
後、聖武天皇ノ後ハ全ク佛法ノ如キ形ニナッテ、マルデ山ノ中デヤトカ谷ノ
底デヤトカ田畑デヤトカニヤッテ見タ、ソレデハ利益ガアルモノデアル、
現在利益ニナッテ居ルト云フコトヲ申シマスレバ文久二年ニ戸田越前守ガ
願ッテ即チ後、間瀬和三郎ト云フ家老ヲシテ調ベサセタコトガアル、一人デ
調ベタノデハ少ナイカラ四人デ圖ヲ取ッテ歩イタコトガアリマス、其クラキ
ノモノデ圖ハ誠ニ大切ナモノデアル、併ナガラ其事ハ外ニ涉リマスガ、此男
ト蒲生君平ト二人ダケデ恐ラク三百年ノ間ニ御陵ニ關係シタ人ハ外ニ無イト

思フ、餘ホド勤王ノ志ヲ有ッテ居ッタ、其勤王ノ事蹟ハ澤山アリマスケレド
モ餘リ長クナリマスカラ悉クハ略シマス、ソレデ此御陵ノ事モ幕府ノ時分ニ
ハ井伊掃部頭ノ櫻田一件後ハ段々ト京都カラ手ガ這入り始メタ、文久二年六
月ニ京都ヨリ大原三位ガ下ダラレテ勅使ニ下ダッテ來タ、其七月ニ一橋ノ慶
喜公ガ再ビ中納言ニナッテ幕府ノ後見職ヲ命ゼラレタ、其月ノ九日ニ松平春
嶽ガ政治總裁ニナッタ、ソコニモッテイッテ戸田越前守ハ宇都宮藩主デアッ
テ何カ京都ニ緣故ガアッタノデ大原三位ガ來タトキニ拜謁シテ御陵ノ修補
ヲ願ヒ出タ、ソレハ餘ホド奇特ナ願ヒヲ出シタト云フコトデアッテ、ソコデ總
裁ノ松平春嶽ガ大原三位ト相談ニナッテ戸田越前守ガ御陵ノ修補ヲシタイト
云フ願ヒヲ出シタガ、戸田越前守ノ家老ニ間瀬和三郎ト云フ人ガアッテ、ソ
レガ御陵ノ修補ノ許可ヲ幕府ヨリ蒙リマシタ、ソレカラ文久ノ二年ノ九月
ニ宇都宮ヨリ四十人ヲ出シテ巡回ニ出マシタ、ソレカラ京都デモ御陵ノ掛リ
ヲ公卿ノ中デモ三條大納言、野宮宰相、柳原大納言、高野宰相ナドガ御陵掛
ヲ命ゼラレタ、サウ云フ勢ノ時分ニ圖ガ無ケレバナラヌト云フノデ圖ヲ書イ
タモノガ四人ホドアリマス、ソレカラ其節文久二年ノ九月カラ掛ッテ三年ノ
冬マデ掛ッタ、遂ニ今ノ家老ノ間瀬和三郎ト云フモノハ諸大夫格……イヤ、
諸大夫格デハナイ文久ノ三年ノ十二月ニハ即チ諸侯ニ列セラレテ一萬石以上
ノ格ニナッタ、其間瀬ハ戸田ノ親類ダト云フノデ、戸田ノ姓ヲ名乗ッテ戸田
大和守ニナッタ、ソレハ諸君モ御承知ノ通りト思ヒマスガ、ソレカラ三四年
ノ後ノ維新、慶應三年マデニハ隨分、御陵ノ御修補ガ出來タコトデアッタ、
本家ノ宇都宮ノ戸田越前守ヘモイロ／＼賜ハッテ御賞ニ與ッタノデアリマ
ス、トコロガ此御賞ト申シマスモノハ抑、舊幕中ニハ少シ勤王ノ事蹟ガアッ
タモノナレバ皆御賞ニナッタ、唯今ノハ熊澤直見ト云フモノデハ三代ニ
ナリマス、是ハ今ドコニ居ルカト云ヘバ明治元年マデハ田中藩デアッタケレ
ドモ明治元年ノ七月ニ德川家ガ謂ハユル駿州遠州等ノ領分ニナリマシテ、ソ
レデ駿州遠州ノ大小名ハ皆國替ヲ言ヒ付ケラレタ、即チ其時ニ房州北條ニ國
替ヲシテ是ハ長尾藩ト云ッタノデゴンスガ、唯今惟興ノ孫ハ熊澤直見ト云ッ
テ千葉縣士族デアリマス、是ハ到底祖父ノコトヲ自分ヨリ申ス人デハアリマ
セヌ、私ドモ土方伯ニ聽イテ居ッタカラ斯ウ云フモノモ〔御陵私記二冊ヲ示
ス〕借り出シテ來タコトデアリマス、ドウモ是ハ御追賞ニナッテ最モ然ルベ
キコトト考ヘマスガ、委シクハ御話ハ申シマセヌ、委シク申上ゲタイガ、モ

ウ大分御分リデゴザイマセウカラ是ダケデ御斷リヲシテ置キマス

○男爵野田豁通君 尙ホ私ハ一言御質問ヲ申上ゲタイ、唯今、關君カラ大變長イ御話ヲ承リマシタガ、私ノ御尋ネ申シタル要點ニ付キマシテ少シモ要領ヲ得ナイ、私ノ御尋ネノ要點ハ土方伯ヨリノ御請願ハ功績顯著ナリト雖モ未ダ何等ノ恩典ニ浴セザルモノノ追賞ノ御請願デアリマスガ、其功績顯著ト申シマスノハ茲ニ掲ゲテゴザイマスガ、ソレハ御陵ノ取調ベノミデアリマスルカ、他ニ勤王ノ事蹟トシテ申立ニナッタ事柄ガゴザイマスガ、其事ニ付イテ、ドウゾ簡單明瞭ニ御答ヲ願ヒタイ、長クハ要シマセヌ

○男爵關義臣君 唯今ノナニハ功勞顯著ナリト雖モト云フノハナンデスガ、是ハ私ガ今何モ持ッテ居リマセヌガナ、是ハ委員會ノ方デ餘ホド約マッタノデ斯ウ云フコトヲ言ッタノデアリマセヌカ、請願ノ原書ハ今ハ持ッテ居リマセヌ、原書ハ少シ長ウゴザイマスケレドモ、ソレヲ約メテ書カレタンドゴザイマスカラ、是ハチヨット覺エテハ居リマセヌガ、併シ是ハ必ズ功勞顯著ト書イテナカッタカモ知レマセヌ、又有ッタトシタ所ガ其功勞顯著ト云フノガ甚ダ弊ガアルカモ知リマセヌケレドモ實ハ……併ナガラ實ハ顯レタ功勞ト云フモノハ餘程ムツカシイ、ケレドモ今日カラ見タナレバ功勞ト言ハレルガ其時ハ功勞トハ言ハレナイ、先刻申上ゲタ如ク、ソナコトガ、バットシタヲ捕縛ニナッタカモ知レマセヌ、ソレデ功勞顯著ト云フ字ハチット當ラヌヤウデアリマスガ、本人カラ出サレタ書類ハ持ッテ居リマセヌ、アナタハ御持チデアリマスマイナ、是ハ必ズ委員會デ御修正ニナッテ出タモンデアラウト想像シマス、尙ホ委員會ノ方ヲ調ベテ……今、委員長モ茲ニゴザルガ、書類ハ無イデアリマスダラウ……

○議長(公爵德川家達君) 採決イタシマス、唯今問題ニ供シマシタ請願ハ總テ請願委員長ノ報告通りデ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 前キニ御委託ニナリマシタ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

〔仙石書記官朗讀〕

明治四十年法律第五十二號中改正法律案外一件特別委員

伯爵松平 賴壽君 子爵黒田 和志君 子爵森 清君
長谷部 辰連君 男爵藤大路 親春君 男爵二條 正麿君
何 禮之君 湯地 定監君 宮本 谷藏君

營業稅法中改正法律案特別委員
侯爵大炊御門幾鷹君 伯爵川村 鐵太郎君 子爵人江 爲守君
子爵酒井 忠亮君 男爵船 越 衛君 男爵石黒 忠惠君
男爵久保 田讓君 男爵波多野 敬直君 男爵佐野 延勝君
男爵武井 守正君 男爵吉川 重吉君 男爵小早川 四郎君

谷 森 眞男君 仁尾 惟茂君 安樂 兼道君
小野 光景君 木村 誓太郎君 鎌田 榮吉君

輕便鐵道法案特別委員
子爵唐橋 在正君 子爵梅小路 定行君 子爵松平 直敬君
男爵辻 新次君 小牧 昌業君 男爵田 健治郎君

室田 義文君 市川 文藏君 伊藤 長次郎君
北海道土功組合法中改正法律案特別委員
伯爵萬里小路通房君 子爵松平 忠禎君 男爵園田 安賢君

伯爵高木 兼寛君 西村 亮吉君 湯地 定基君
木場 貞長君 絲原 武太郎君 松村 脩平君
那覇港修築工事ヲ沖繩縣ニ引繼ク事ニ關スル法律案特別委員

伯爵大村 純雄君 子爵松平 康民君 男爵調所 廣丈君
男爵奈良原 繁君 黒岡 帶刀君 男爵島津 忠欽君
岡谷 惣助君 岩元 信兵衛君 土居 通博君

○議長(公爵德川家達君) 明十五日ノ日程ハ本院彙報ヲ以テ御報道ニ及ビマス、本日ハ是デ散會イタシマス

午後一時十四分散會